
HP Operations Manager

Red Hat Enterprise Linux Advanced Platform オペレーティング システム上の管理サーバー向け

リリース ノート

ソフトウェア バージョン: **9.10**

リリース ノートの発行日: **2010 年 8 月 6 日**

本書では、HP Operations Manager (HPOM) バージョン 9.10 の概要について説明します。これには、マニュアルやオンライン ヘルプに記載されていない重要な情報も含まれます。

本書の最初のページには、ソフトウェアのバージョンを表すバージョン番号と発行日が記載されています。発行日は、本書の更新のたびに変更されます。最新の更新を探したり、現在使用しているエディションが最新であるかどうかを確認するには、以下の場所で「Operations Manager for UNIX」を選択してください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

本書には、以下のトピックに関する情報が記載されています。

- **Media Kit** の内容
- **HPOM 9.10** の改良点と修正
- **HPOM リリース 9.xx** の新機能
- その他の **HP** ソフトウェア ソリューションとの統合
- その他の **HP** ソフトウェア ソリューションとの共存
- サポート中止と廃止について
- インストールに関する注意点
- 既知の問題、制限、回避策
- ドキュメントの正誤表
- ローカル言語のサポート
- **HP Software** サポート
- ご注意

Media Kit の内容

HPOM Media Kit には、HPOM の基盤製品、HP Performance Agent 5.0、HP Performance Manager 8.21、SiteScope 10.10、HP Reporter 3.8x、および NNMi 8.1x/9.xx for Linux のインストールに必要な数枚の CD と DVD が含まれます。

HPOM 9.10 の改良点と修正

このバージョンは、以下のように改良されています。

新機能

HPOM 9.10 に導入された新機能は以下のとおりです。

ローカライズ

HPOM 9.10 は、日本語、韓国語、簡体字中国語、スペイン語にローカライズされています。詳細は、46 ページの「ローカル言語のサポート」を参照してください。

RAC のサポート

Oracle Real Application Clusters (RAC) は、高可用性クラスタ環境内の複数 (または多数) のノードが単一データベースへのアクセスを共有できるようにする、スケーラブルで管理性に優れたソリューションを提供します。

この共有アクセスにより、いずれかのノードでシステム障害が発生した場合でも、残りのいずれかのノードからデータにアクセスできます。障害が発生したノードで行われていた処理は自動的に回復されます。管理者が介入する必要はなく、データも失われません。

Oracle RAC は、汎用コンポーネントを組み合わせて大規模システムを構築するための Oracle Corporation 独自の技術であり、エンタープライズ グリッド コンピューティングの基礎となっています。

Oracle データベース サーバーは、HP Operations 管理サーバーがサポートするどのプラットフォームにもインストールすることができ、HPOM と併用できます。RAC 環境では、HPOM のオンラインバックアップと復元がサポートされます。

安全な SSL 接続

ユーザー環境のセキュリティを向上させるために、HPOM Web ページへの接続には安全な SSL 接続を利用できます。安全な接続にはポート 8444 が使用されます。たとえば、https://<管理サーバー>:8444/ITO_DOC のようになります。

ライセンスング

HPOM ライセンスの状態や可用性を調べたり、HTML 形式のライセンス レポートを生成できるように、OM License Reporter (omlicreporter) というライセンス レポート ツールが導入されました。

クラスタ環境では、ライセンスを共有ディスクにインストールできます。HA クラスタでは、従来のリリースでは複数のライセンスが必要でしたが、必要ライセンスは 1 つのみになりました。管理 UI を実行するには、有効なサーバー ライセンスが必要です。

HPOM 8.xx の DCE ノードへの対応

HPOM 8.xx から移行する場合、opccfgupld コマンドを使って HPOM 8.xx の設定データをアップロードすると、DCE ノードは ip/other/other として追加されます。これにより、HPOM 8.xx メッセージの転送が可能になります。

Java GUI

頻繁に使用するツールは、ツール起動用ポップアップメニューの区切り線の上に表示されるので、簡単に選択できます。

新しい CLI

HPOM 9.10 には、以下の新しいコマンドライン インタフェースが用意されています。詳細は、マニュアル ページを参照してください。

```
omlicreporter  
mib2policy (MIB ファイルをトラップ ポリシーに変換するユーティリティ)
```

新しい変数

HPOM リリース 9.10 に導入された変数は以下のとおりです。

OPC_CFGDWN_OMIT_VIRTUAL_GROUP_DOWNLOAD	OPC_DONT_EMPTY_NS_CACHE
OPC_CSA_ALLOW_IP_MISMATCH	OPC_DONT_LOG_REUSED_COREIDS
OPC_DEPLOY_IF_CALLBACK_FAILS	OPC_MSGKEY_MODIFY_TEXT
OPC_DIST_OMIT_ERROR_AGT_NOT_INST	OPC_ALLOW_DUPLICATE_IP

新しい API

HPOM リリース 9.10 に新たに導入された API は以下のとおりです。

```
opc_distrib_highprio()  
opcapi_crypt_string()  
opcapi_namesrv_free_hostent()  
opcapi_namesrv_gethost()  
opcpolicy_list_resolved_assignments()
```

新しいコマンドライン オプション

HPOM リリース 9.10 に導入されたコマンドライン オプションは以下のとおりです。

```
opcragt -dist -simulate  
opcragt -dist -highprio  
opcpolicy -chg_assign_mode  
opcpolicy -list_pol_assigns  
opcpolicy -upd_pol_assigns  
opcpolicy -copy_pol_assigns  
opcpolicy -copy_group  
opcpolicy -copy_pol  
opcpolicy -list_conflicts  
opcpolicy -list_resolved_assigns  
opcsrcvconfig -audit -list_events
```

その他

- バージョン 8.60 のエージェントに基づく新しい OpenVMS エージェントを利用できます。
- 新しい contrib ツール (/opt/OV/contrib/OpC/om_server_switch.sh スクリプト) が導入されました。

使用法:

```
/opt/OV/contrib/OpC/om_server_switch.sh <新しい長いホスト名> <新しい IP アドレス> \  
<古い長いホスト名> <古い IP アドレス> [ nowait ]
```

これを使用することで、イメージテンプレートを使って追加の HPOM サーバーを簡単に高速インストールまたはクローン化できます。このようなイメージに必要な変更は、このスクリプトによって行われます。スクリプトの機能は以下のとおりです。

- OM に関連する内部設定ファイルを変更する。
 - 新しいホスト名と IP アドレスに合わせて DB リスナー ファイルを変更する。
 - ローカル エージェントと管理サーバーに合わせて新しい ovcoreid を作成する。
 - ノードおよびルート証明書の新規セットを作成する。
 - Oracle、OM サーバー、ローカル エージェントを再起動する。
 - ポリシー キャッシュをクリアする。
 - ローカル エージェントにポリシーを配布する。
 - 新しいライセンスをインストールする (手動)。
- 重複する複数の IP アドレスをデータベースに記録できるようになりました。IP アドレスが同じ場合、通常のルーティングは機能しないため、同じ IP アドレスを持つ異なるノードには HTTPS プロキシ経由でアクセスできるようにする必要があります。また、HBP を RPC のみに設定する必要もあります。これは、ping コマンドを使用できないためです。このコマンドを実行するとエラーが生じる場合があります。

この機能を有効にするには、以下の設定変数を設定します。

```
# ovconfchg -ovrg server -ns opc -set OPC_ALLOW_DUPLICATE_IP TRUE
```

- 証明書要求に含まれる IP アドレスの不一致を無視できるようになりました。この機能を有効にするには、以下の設定変数を設定します。

```
# ovconfchg -ovrg server -ns opc -set OPC_CSA_ALLOW_IP_MISMATCH TRUE
```

新規サポート内容

HPOM は以下の環境をサポートするようになりました。

Red Hat Enterprise Linux 5.5

HPOM は Red Hat Enterprise Linux 5.5 をサポートするようになりました。管理サーバーのソフトウェア要件とインストール手順については、『*HPOM Installation Guide for the Management Server*』を参照してください。ハードウェアおよびソフトウェア要件については、23 ページの「インストールに関する注意点」も参照してください。

Oracle 11g リリース 2

HPOM は Oracle 11g リリース 2 (11.2) をサポートするようになりました。詳細は、24 ページの「Oracle データベース」を参照してください。

- Oracle 11.2 は、HPOM リモートデータベース、および RAC 環境でもサポートされます。

HPOM リリース 9.xx の新機能

HPOM 9.xx には、新機能、機能拡張、その他の変更が導入されています。

新機能

HPOM 9.xx の新機能は以下のとおりです。

64 ビット アプリケーション

HPOM は 64 ビット アプリケーションです。AMD または Intel x86-64 プラットフォームでは、HPOM のすべての主要バイナリ、ライブラリ、スクリプト、その他 Linux オペレーティング システム用に移植されたユーティリティが 64 ビット アプリケーションとして実行されます。

HPOM の Web ベースの管理

HPOM には、Motif UI に代わる新しい Web ベースの管理 UI が用意されています。新しい Web ベースの管理 UI の主なメリットは以下のとおりです。

- HPOM の Web ベースの設定。
- アクセス権が異なる複数の管理者による同時使用。
- HPOM の設定項目のナビゲーションと編集機能の改善。
- 設定の変化と相違を簡単に特定できるポリシー (テンプレート) のバージョンニング機能および比較機能。

管理 UI は、サーバーのインストールが完了した後に HPOM システムにインストールできます。HPOM 管理 UI のユーザー ドキュメントは、サポート Web サイトからオンラインで入手できます。

新しいポリシー タイプ

HPOM テンプレートの名称は「ポリシー」に変わり、新しいモニタリング機能を提供します。

- **Windows Management Interface (WMI)** ポリシー タイプは、WMI クラスおよびインスタンスを監視し、プロパティの値が指定の値と一致した場合や、指定したインスタンスが作成された場合に対応します。
- **ノード情報** ポリシー タイプを使用することで、クライアント/サーバー通信のバッファ サイズ、IP アドレス、ポート番号など、エージェントの一部の動作を設定できます。
- **サービス/プロセス モニタ** ポリシー タイプは、管理対象ノードで実行されているサービスとプロセスを監視し、サービスまたはプロセスの状態が変化した場合にメッセージを送信します。
- **測定しきい値** ポリシー タイプはパフォーマンス データを評価し、データが許容範囲を外れた場合に対応します。このポリシー タイプは、CPU 負荷、ディスク容量、実行プロセス数など、絶えず変化するパラメータを監視する場合に便利です。VB Script や Perl を使って独自の計算を行い、それに基づいてしきい値違反を判定することもできます。
- **設定ファイル** ポリシー タイプは、ノードに配布された SAP や Microsoft Exchange などのスマート プラグイン (SPI) がインストールメンテーションを設定する際に使用されます。
- **Windows イベント ログ** ポリシー タイプを使用することで、いくつかのイベント ログ ソースにアクセスできます。

ポリシーのバージョンニング

HPOM 8.xx テンプレートを HPOM 9.xx にアップロードすると、自動的にポリシーに変換されます。ポリシーとテンプレートの使用目的は同じですが、ポリシーはバージョンングされます。管理対象ノード、ノードグループ、またはポリシーグループには、特定バージョンのポリシーを割り当てることができます。また、特定バージョンのポリシーにロールバックしたり、FIX、LATEST、および MINOR_TO_LATEST モードでポリシーを割り当てることもできます。

カテゴリベースのインストルメンテーションの配布

カテゴリを使用することで、インストルメンテーションとポリシーを関連付けることができます。この関連付けにより、管理サーバーがポリシーを配布するときに、そのポリシーに必要なインストルメンテーションを自動的に配布できます。カテゴリを使用することで、どのインストルメンテーションをどの管理対象ノードに配布するかをより詳細に制御できるため、配布する必要があるインストルメンテーションの数は少なくなります。

カテゴリベースのインストルメンテーションは、選択的配布の概念を拡張し、このような配布に代わって使用されます。選択的配布は、後方互換性のために現在も使用可能です。今後、選択的配布は非推奨となる予定です。カテゴリベースのインストルメンテーションへのアップグレードをご検討ください。

ポリシーとインストルメンテーションの互換性

HPOM on UNIX および HPOM on Linux 用に開発されたポリシー、ポリシーグループ、インストルメンテーションには、HPOM on Windows との間に相互互換性があります。

サブエージェントの管理

このバージョンの HPOM には、ポリシー管理機能に基づく新しいタイプのサブエージェント登録機能が導入されています。サブエージェントの割り当ては、サブエージェント割り当てポリシーによって管理されます。サブエージェントのバージョンが異なる場合、対応するサブエージェントポリシーのバージョンも異なります。これにより、管理対象ノードにどのサブエージェントが割り当てられているかを判別できます。

サブエージェントポリシーは編集を前提としたものではなく、サブエージェント サプライヤから提供されます。opcragt コマンドの新規オプションを使用してサブエージェントポリシーをノードに割り当てて配布すると、対応するサブエージェントがそのノードにインストールされます。サブエージェントポリシー自体は管理対象ノードには配布されず、opctemplate/ovpolicy の出力にも表示されません。

設定のオンライン同期

今回のリリースの HPOM には、HPOM 管理サーバーと Java GUI の間で設定データを自動的に同期させる機能が導入されています。オペレータが再ログインして変更を有効にする必要はありません。同期の対象は、ノード、アプリケーション、ポリシー、グループ、ユーザープロファイルなどに加えられた変更です。opccfgupld を使って設定データをアップロードした場合も、サーバーを再起動する必要はありません。

監査

監査機能の設計が見直され、一元的なイベントロギング、4段階の監査レベル、イベントロギングの個別設定に対応できるようになりました。監査情報はデータベースに保存されなくなるため、HPOM 9.xx にアップグレードすると古い監査エントリは失われます。監査範囲の個々の変数の管理には、opcsrvconfig(1m) と ovconfchg(1m) を使用します。

Unicode (UTF-8) のサポート

HPOM 9.xx は、Unicode をサポートしています。Oracle データベースと管理サーバーはどちらも、多言語に対応した UTF-8 キャラクタセットのみを使用します。

ライセンスの管理

ライセンス管理機能の設計が見直され、HPOM と別の製品コンポーネントを簡単かつ柔軟に統合できるようになりました。ライセンス レポートは拡張され、統合したコンポーネントに必要なライセンスを示します。

HPOM Web サービスと Tool Web サービス

HPOM Web サービスを使用することで、製品固有のインタフェースではなく、業界標準の用語と技術標準を使用して、HP Operations 管理サーバーにアクセスするリモートクライアントを開発できます。HPOM には、Incident Web サービスと Tool Web サービスがあります。Incident Web サービスは、クライアントが HPOM メッセージにアクセスできるようにするサービスです。Tool Web サービスは、クライアントが HP Operations 管理サーバーのツールを実行できるようにするサービスです。

コクピット ビュー

HPOM コクピット ビューは、HPOM が監視する環境の状態を表示する Web ベースのインタフェースです。コクピット ビューを使用することで、ビジネスをサポートする環境の運用状況と即応性を簡単に評価できます。

コクピット ビューは、インジケータ パネルとメッセージ ブラウザから構成されます。インジケータ パネルには 1 つまたは複数のメッセージ フィルター グループが表示され、メッセージ ブラウザには各フィルターのメッセージが表示されます。

クラスタのサポート

HPOM 9.xx は、Red Hat Enterprise Linux 5.4 クラスタ環境への HP Operations 管理サーバーのインストールをサポートしています。

新しい CLI

HPOM 9.xx には、以下の新しいコマンド ライン インタフェースが用意されています。詳細は、マニュアル ページを参照してください。

- opcappl
- opcpoltype
- opcsrvconfig
- opcinstrumcfg
- opcpolicy
- ovolicense

新しい変数

監査用に多数の変数が導入されました。それに加え、以下の設定変数が導入されました。

- OPC_XPL_SQL_TRACE
- OPC_KILL_OPUIWWW
- OPC_CFGUPLD_BLOCK_RETRY
- OPC_OVHARG_START_LOCAL_AGENT
- OPC_SUPPRESS_IF_NO_CORRELATION_MSGAPPLICATION
- OPC_SOURCE_FORW_NOTIF_TO_TT
- OPC_TRUNC_MSG
- OPC_PING_SIZE
- OPC_JGUI_VER_DOWNLOAD_URL
- OPC_EMPTY_NS_CACHE
- OPC_SUPPRESS_IF_NO_CORRELATION
- OPC_SUPPRESS_IF_NO_CORRELATION_MSGOBJECT
- OPC_ENABLE_FWDCHAIN_FWDSENDER_CMA
- OPC_SUPPRESS_IF_NO_CORRELATION_MSGGROUP
- OPC_MSG_BULK_INSERT_RATE

サーバー設定変数の詳細は、『*HPOM Server Configuration Variables*』を参照してください。

監査に関連する変数の詳細は、『*HPOM Administrator's Reference*』を参照してください。

新しい API

以下の新規 API の詳細は、各 API のマニュアル ページを参照してください。

<code>opcinstrum_get_categories()</code>	<code>opcpolicytype_add_from_xml()</code>	<code>opcpolicybody_modify()</code>
<code>opcinstrum_get_category()</code>	<code>opcpolicytype_get()</code>	<code>opcpolicybody_modify_by_name()</code>
<code>opcinstrum_add_categories()</code>	<code>opcpolicytype_get_template()</code>	<code>opcpolicy_get_categories()</code>
<code>opcinstrum_del_categories()</code>	<code>opcpolicytype_modify()</code>	<code>opcpolicy_assign_categories()</code>
<code>opcinstrum_modify_categories()</code>	<code>opcpolicytype_delete()</code>	<code>opcpolicy_deassign_categories()</code>
<code>opcnode_assign_policy_groups()</code>	<code>opcpolicytype_write_xml()</code>	<code>opcpolicy_assignment_mode_set()</code>
<code>opcnode_deassign_policy_groups()</code>	<code>opcpolicytype_get_name_by_uuid()</code>	<code>opcpolicy_copy_assignments()</code>
<code>opcnode_get_policy_groups()</code>	<code>opcpolicytype_get_uuid_by_name()</code>	<code>opcpolicy_list_assignments()</code>
<code>opcnode_assign_policies()</code>	<code>opcpolicy_add()</code>	<code>opcpolicy_update_assignments()</code>
<code>opcnode_deassign_policies()</code>	<code>opcpolicy_get()</code>	<code>opcpolicygrp_get()</code>
<code>opcnode_get_policies()</code>	<code>opcpolicy_get_data()</code>	<code>opcpolicygrp_add()</code>
<code>opcnode_assign_categories()</code>	<code>opcpolicy_modify()</code>	<code>opcpolicygrp_create()</code>
<code>opcnode_deassign_categories()</code>	<code>opcpolicy_delete()</code>	<code>opcpolicygrp_modify()</code>
<code>opcnode_get_categories()</code>	<code>opcpolicy_copy()</code>	<code>opcpolicygrp_delete()</code>
<code>opcnodegrp_assign_policies()</code>	<code>opcpolicy_edit()</code>	<code>opcpolicygrp_copy()</code>
<code>opcnodegrp_deassign_policies()</code>	<code>opcpolicy_edit_body()</code>	<code>opcpolicygrp_get_list()</code>
<code>opcnodegrp_get_policies()</code>	<code>opcpolicy_get_list()</code>	<code>opcpolicygrp_get_data()</code>
<code>opcnodegrp_assign_policy_groups()</code>	<code>opcpolicy_get_list_by_type()</code>	<code>opcpolicygrp_assign_policies()</code>
<code>opcnodegrp_deassign_policy_groups()</code>	<code>opcpolicy_header_create()</code>	<code>opcpolicygrp_deassign_policies()</code>
<code>opcnodegrp_get_policy_groups()</code>	<code>opcpolicybody_get()</code>	<code>opcpolicygrp_list_assignments()</code>
<code>opcpolicytype_add()</code>		

機能拡張

HPOM には、以下の機能拡張が導入されています。

Java GUI の拡張

Java GUI の機能の完全な説明は、『HPOM Java GUI オペレータガイド』を参照してください。主な拡張内容は以下のとおりです。

- サービスの拡張

グラフ ビューとカスタム ビュー以外に、サービス マップ テーブル ビューが追加されました。このビューはメッセージ ブラウザに似ており、サービスとそのプロパティを表形式で示します。サービス マップ テーブル ビューはサービス サブマップとカスタム マップで利用できますが、サービス グラフでは利用できません。

- メッセージの拡張

最新のリリースに導入された拡張は以下のとおりです。

- メッセージ フィルター ブラウザからのメッセージをエクスポート、ドラッグ、または印刷すると、そのメッセージはメッセージ フィルター ブラウザ内のメッセージと同様にソートされます。
- 相対時間の再計算を有効にして相対時間フィルタリングを行うと、メッセージ ブラウザの表示が更新されて新しいメッセージが表示され、フィルタリング条件から外れた古いメッセージは表示されなくなります。管理者は、サーバー パラメータ `OPCUIWWW_FILTER_RELATIVE_TIME_RECALC` を使用してこの動作を有効にできます。

- Java GUI ウィンドウの拡張

[プリファレンス] ダイアログに新しいオプション ([常に上に表示する]) が追加されました。このオプションを有効にすると、Java GUI ウィンドウ (メインおよび取り外し) は常にその他のウィンドウの上に重ねて表示されます。itoopecr には、stay_on_top というパラメータが追加されました。デフォルト値は no です。

- その他

- Java GUI のフィルタリング機能は、CMA と HPOM スタイルのパターン マッチングをサポートするようになりました。
- HPOM Java GUI は、WebStart を使って起動できます。HPOM のホームページ (http://<サーバー名>:8081/ITO_OP/) には、WebStart で Java GUI を起動するためのリンクが追加されました。
- Java GUI の機能が拡張され、メッセージ内の HTTPS および FTP ハイパーリンクがサポートされるようになりました。
- Java GUI クライアントが HTTPS モードで接続している場合、ホスト名 (長い名前)、IP アドレス、接続タイプ (HTTPS またはソケット)、接続ポート (たとえば、ソケット通信では 2531) を listguis ツールで確認できます。
- HPOM for Windows との整合性を図るため、一部の用語が変更されました。たとえば、「アプリケーション」は「ツール」と表記されるようになりました。

MoM 環境でのメッセージ転送の拡張

MoM 環境でのメッセージ転送は、以下のように拡張されました。

- HPOM 8.xx と HPOM 9.xx の間の HTTPS プロトコルを使ったサーバー間メッセージ転送がサポートされます。
- HPOM 9.xx でキーワード (MSGCONTROLLINGMGR | NOTIFYMGR) を設定しない場合は、MSGCONTROLLINGMGR (通常メッセージ) と見なされます。HPOM 8.xx のデフォルト動作では、キーワード未指定のメッセージは NOTIFYMGR (読み取り専用) と見なされていました。
- 変更された msgforw ファイルを読み取る際に、管理サーバーを再起動する必要がなくなりました。ただし、変更された設定を読み取るには、ovconfchg コマンド (オプションなし) を実行する必要があります。
- CMA をフィルタリングできるようになりました。CMA 名の固定値と CMA 値のパターン マッチングを指定できます。

構文: CMA NAME "<名前>" VALUE "<パターン>"

注記 CMA 名には、「|」 (OR) 演算子を使用できます。

cma1 または cma2 という名前の CMA が含まれるすべてのメッセージを受け付ける場合の例:

```
CMA NAME "cma1|cma2" VALUE "<*>"
```

パターンは、テンプレート条件と同様に指定します。

- パターンを使ってノードをフィルタリングできます。

パターンは、外部ノードと同様に指定します。1つの行に指定したどのパターンとも一致します。

```
構文: NODEPATTERN <パターン タイプ> "<パターン>" [ <パターン タイプ> "<パターン>"
[ ... ]]
```

この <パターン タイプ> は、IPPATTERN または NAMEPATTERN です。

192.168.*.* という IP アドレスのすべてのノードと一致させる場合の例：

```
NODEPATTERN IPPATTERN "192.168.<*>.<*>"
```

*.hp.com というホスト名のすべてのノードと一致させる場合の例：

```
NODEPATTERN NAMEPATTERN "<*>.hp.com"
```

- ノード グループをフィルタリングできます。

構文： NODE NODEGROUP "<ノード グループ>" [NODEGROUP "<ノード グループ>" [...]]

HPOM のバックアップと復元の拡張

HPOM のバックアップと復元が拡張されました。Oracle Recovery Manager (RMAN) に基づく新しいバックアップ スクリプト (opcbbackup_online、opcbbackup_offline) と復元スクリプト (opcrestore_online、opcrestore_offline) が導入されました。

opcbbackup_online および opcrestore_online ツールは、データベースのローカルおよびリモート インストールをサポートします。

- opcrestore_offline と opcrestore_online は、ローカル データベースのバックアップを自動的に復元します。制御ファイルやデータベース全体が見つからない場合でも、ユーザーが介入する必要はありません。
- opcbbackup_online および opcbbackup_offline によるリモート データベースのサポートが改善されました。

CLI の拡張

- | | | | |
|---------------|--------------|--------------|------------|
| • opckack | • opccfgupld | • opchbp | • opcnode |
| • opcagtdbcfg | • opccsa | • opchistdwn | • opcragt |
| • opccfguser | • opcdelmsg | • opclaygrp | • opctempl |
| • opcpolicy | | | |

コマンド ライン インタフェースの変更や機能拡張の詳細は、該当するマニュアル ページを参照してください。

API の拡張

API の新機能：

- opcdata_set_* API が拡張され、メッセージ フィルター のデータ構造内に CMA を設定できるようになりました。ただし、現時点ではメッセージ キーのフィルタリングには対応していません。
- API opctemplfile_* と opctempl_* は、後方互換性を持つよう構成されました。opctempl -add コマンドを使って HPOM 8.xx テンプレート (たとえば、NNMi 統合) を追加できるようになりました。
- 設定ストリーム インタフェース (CSI) は、設定変更を同期させるためのメッセージ ストリーム インタフェース (MSI) の拡張です。CSI は、内部 (サーバー プロセス、Java GUI) および外部 (API クライアント) の設定コンシューマに対して設定変更の登録機能を提供します。これは、opcif_open() API 内で使用できます。以下のような新しいインタフェース タイプがあります。

OPCSVIF_CFG_CHG_EVENTS: すべての設定変更の登録を有効にします。

OPCSVIF_CFG_CHG_EVENTS_GUI: Java GUI と併用することで、特定オペレータに関連するイベントの登録を有効にします。

- `opcconn_get_capability()` および `opcconn_set_capability()` API に `OPCDATA_CSI_STRING (int)` が追加されました。これは、`opcif_open()` 呼び出しで CSI を開いたクライアントの名前を返します。クライアントがそれ自体の設定変更を取得することを防止するために使用されます。
- `opcsync_inform_server()` が拡張され、新しい設定変更をサーバーおよび GUI プロセスに通知できるようになりました。変更が行われるたびに、HPOM サーバーと GUI は最新の状態に保たれます。

その他の改良点

このリリースのその他の改良点は以下のとおりです。

- 製品と共に **Hotfix** 配布ツールがインストールされるようになりました。Hotfix 配布ツールは、**Lcore**、**CODA**、**EA AGENT** バイナリのホットフィックスに対応しています。このツールは `ovdeploy` の `sp` オプションを使用するため、管理サーバーと管理対象ノード上の `ovdeploy` のバージョンは **06.20.052** 以降である必要があります。
- HPOM が拡張され、`mib2policy` などのサードパーティ ツールの SNMP トラップ ポリシーをインポートできるようになりました。

変更点

HPOM 8.3x と比較して、HPOM では以下の点に変更されました。

HPOM 管理サーバーのインストール方法

新しいインストール スクリプト (`ovoinstall`) と設定スクリプト (`ovoconfigure`) により、インストールと設定を迅速かつ簡単に実行できます。新しいインストール プロセスでは、ソフトウェアのインストール タスクと設定タスクは分離されます。また、ブレーク ポイントとリエントリ ポイントを利用できるので、カスタマイズが容易になり、トラブルシューティング性能も改善されます。

HPOM のインストールと設定の前提条件、およびインストールと設定の手順の詳細は、『*HPOM Installation Guide for the Management Server*』を参照してください。

HPOM 管理サーバーでの情報の設定

以下の表は、HPOM 8.xx と比較して、リリース 9.xx で設定変数のデフォルト値がどのように変更されたかを示しています。デフォルト値を変更していない場合、または特定の値を明示的に設定していない場合は、`ovconfget -ovrg server` を実行してもこれらの設定は表示されないのをご確認ください。

変数	HPOM 8.xx のデフォルト値	HPOM 9.xx のデフォルト値
<code>OPC_HTTPS_MSG_FORWARD</code>	FALSE	TRUE
<code>OPC_NAMESRV_CACHE_SIZE</code>	100	5000
<code>OPC_NAMESRV_RETRIES</code>	3	1
<code>OPC_NAMESRV_MAX_TIME</code>	unset	200
<code>OPC_USE_LOWERCASE</code>	FALSE	TRUE
<code>OPCUIWWW_BULK_MODE</code>	FALSE	TRUE
<code>OPCUIWWW_NEW_MSG_NO_DB</code>	FALSE	TRUE
<code>OPC_JGUI_WEBBRW_APPL_RESULT</code>	FALSE	TRUE

変数	HPOM 8.xx の デフォルト値	HPOM 9.xx の デフォルト値
OPC_UPDATE_DUPLICATED_SEVERITY	NONE	LAST_MESSAGE
OPC_UPDATE_DUPLICATED_MSGTEXT	NONE	LAST_MESSAGE
OPC_OPCCFGDWN_ALL_INCLUDE_SELDIST_SERVICES	FALSE	TRUE
OPCRAGT_USE_THREADS	FALSE	TRUE
OPC_FORWM_MAX_BULK_SIZE	0	100
OPC_TTNS_TIMEOUT	0	300
OPC_MSG_BULK_INSERT_RATE	not supported	100

一部の変数の動作は以下のように変更されました。

HPOM の以前のリリースでは、OPC_TT_SHOW_FORW_MGR が TRUE に設定されている場合、転送マネージャの情報をトラブル チケット システムに送信することができました。ただし、メッセージが転送されない場合は、転送マネージャの情報はトラブル チケット システムに送信されませんでした。新しいリリースでは、転送されないメッセージについては転送マネージャ情報の代わりに空の文字列が送信されます。

Java GUI による Web ブラウザのサポート

Java GUI では、組み込み Web ブラウザを利用できなくなりました。有効なブラウザは、ActiveX に対応したブラウザと外部ブラウザのみです。itooprc の web_browser_type も activex をサポートしています。このため、有効な値は external と activex となります。

Windows 環境では、ActiveX に対応したブラウザがデフォルト ブラウザです。Unix 環境で利用できるブラウザは外部ブラウザのみです。設定変数 OPC_JGUI_INTERNBROW_DISABLED の有効な値は、ACTIVEX と NONE です。

ノードの管理

HPOM の今回のリリースでは、ノード名は一意である必要があります。以前のバージョンでは、ノード名とネットワーク タイプの組み合わせが一意である必要がありました。たとえば、ノードの最初のメッセージが到着した時点ではネーム サービスにアクセスできず、後からアクセス可能になる場合に、IP ノードと非 IP ノードで同じノード名を使用できました。HPOM 9.xx では、IP ノードと非 IP ノード(タイプは「その他」)の処理に違いはありません。これは、以前に OPC_NEW_NAMERES の設定で実践されたのと同じアプローチです。

外部イベントに対するノードの処理も変更されました。タイプが「IP 名」の外部ノードも非 IP ノードからのメッセージと一致します。

外部ノードタイプ「IP 名」は「名前」に変更されました。タイプが「その他」の外部ノードのタイプはアップグレード時に「名前」に変換されます。

外部ノードのパターン マッチングでは、大文字と小文字は区別されなくなりました。

ポリシー名の変更

HPOM 9.10 では、ポリシー、ポリシー グループ、ツール、ツール グループの名称に含まれる「NT」という文字列は「Windows」に変更されました。たとえば、「NT ツール」という名称は「Windows ツール」に変更されます。

HTTP 接続ポートの変更

HPOM Web ページに接続するためのポートは、8081 に変更されました。たとえば、http://<管理サーバー>:8081/ITO_DOC のようになります。

イベント関連処理サービス (ECS) のサポート

Correlation Composer または ECS Designer として提供される ECS は、HPOM 9.xx では以下のようにサポートされます。

- ECS プロセス設定ファイルの場所

管理サーバー上の ECS プロセス (opcecm) の設定データの場所は、共有ディスクに変更されました。これにより、HA クラスタ環境で特定の問題が回避されます。

以前の場所: /var/opt/OV/conf/OpC/mgmt_sv

新しい場所: /var/opt/OV/shared/server/datafiles/policies/ec

- シンボリック ノード名 \$MGMTSV の機能拡張

API と CLI では、シンボリック ノード名 \$MGMTSV を使用して以下の処理を実行できるようになりました。

- \$MGMTSV への ECS ポリシー (または ECS ポリシーを含むポリシー グループ) の割り当て、および割り当て解除。以下に例を示します。

```
# opcnode -[de]assign_pol node_name="\$MGMTSV" net_type=NETWORK_NO_NODE pol_type=ec
pol_name=<名前> [ version=<バージョン> ]
```

- \$MGMTSV に割り当てられているポリシーの表示。以下に例を示します。

```
# opcnode -list_ass_pols node_name="\$MGMTSV" net_type=NETWORK_NO_NODE
```

ポリシーを配布する呼び出し (opcragt -dist) とデータ/ファクト ストアを配布する呼び出し (ovocomposer) は、HPOM 8.xx から変更されていません。

- ECS Designer のリモート使用

ECS Designer を使用できないオペレーティング システムに HPOM がインストールされている場合、そのシステムでは ECS Designer を使用して ECS 関連処理サービスを作成することはできません。ただし、ECS Designer がサポートされるプラットフォーム (Windows XP、Windows Vista など) で関連処理サービスを作成し、そのサービスを ECS Designer がサポートされない HPOM システムで利用することは可能です。

- ECS サーキットの検証ステータス

以前のバージョンでは、検証チェック中はエージェントまたは管理サーバーに ECS サーキットを配布することができず、ECS サーキットは未検証と見なされました。HPOM 9.xx では、検証済みと未検証の ECS サーキットは区別されません。すべての ECS サーキットが検証済み (構文が正しいことが確認済み) と見なされます。HPOM 9.xx への設定のアップロード時に未検証の HPOM 8.xx サーキットがアップロードされる場合、関連ポリシーの名前とサーキットを示す警告が opccfgupld によって出力されます。HPOM 8.xx とは異なり、HPOM 9.xx ではデータを配布できます。

- ポリシー ベースのメッセージの大量発生を検出するための新しいイベント関連処理ポリシーが追加されました。詳細は、『*HPOM MessageStorm Detection whitepaper*』を参照してください。
- デフォルトの ECS サーキットは、Composer Correlator ECS サーキットの新規バージョンで更新されました。

スマート プラグイン (SPI) のサポート

HPOM 9.xx と最近の更新でサポートされる SPI のバージョンについては、以下の場所にあるサポート マトリクスを参照してください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/document/KM323488>

SPI DVD 2009 では、HPOM 9.xx のサポートが初めて追加されました。SPI DVD 2009 より古いバージョンの SPI を HPOM 9.xx にインストールすることはできません。

HPOM 9.xx 向けの SPI DVD 2009 には、少数の Linux 用 SPI が含まれます。提供される SPI は以下のとおりです。

- SPI for Oracle
- SPI for SAP
- SPI for JBoss
- SPI for IBM DB2
- SPI SHS

注記 SPI DVD 10.x には、残りの Linux 用 SPI のサポートも含まれます。

HPOM 8.xx の設定データは HPOM 9.xx に移行できます。これには、HPOM 8.xx にインストールされ、そこからダウンロードされ、HPOM 9.xx にアップロードされる、2008.1 SPI CD に収録されている SPI のテンプレートとインストールメンテーションが含まれます。SPI を HPOM 8.xx から HPOM 9.xx に移行するには、まず、HP Operations 管理サーバーをバージョン 9.xx にアップグレードし、その上で SPI を HPOM 8.xx から HPOM 9.xx に移行します。詳細は、該当 SPI のリリース ノートを参照してください。

注記 HPOM 9.xx では、既存の Infrastructure SPI 1.0 はサポートされます。Infrastructure SPI DVD のリリース サイクルは、メイン ストリーム SPI DVD のサイクルとは異なります。

既存の HPOM SPI (2006.1 SPI CD ~ 2008.1 SPI CD) を HPOM 9.xx にインストールすることはできません。

その他の変更点

このリリースのその他の変更点は以下のとおりです。

メッセージ キーの関係で MGMTSV_KNOWN_MSG_NODE_NAME 変数を使用できるようになりました。

その他の HP ソフトウェア ソリューションとの統合

HPOM 9.xx は、他の HP ソフトウェア ソリューション (Network Node Manager i (NNMi)、Business Availability Center (BAC)、Dependency Mapping Automation (DMA) など) と統合できます。完全なリストと詳細については、以下の場所にあるサポート Web サイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/sc/integration_catalog.jsp

SiteScope 10.10

HPOM SiteScope Adapter と 10.10 以降のバージョンの SiteScope を併用するときは、SiteScope グループ MG ファイルの作成を明示的に有効にしてください。SiteScope をインストールしても、デフォルトではこれらのファイルは作成されません (SiteScope のリリース ノートも参照)。[プリファレンス]->[一般プリファレンス]->[メインパネル]を選択し、[設定ファイルを有効にする]オプションを有効にします。このオプションが選択されている旧バージョンの SiteScope からアップグレードする場合は、MG 設定ファイルはサポートされます。このオプションが無効に設定されている場合は、SiteScope は検出されません。

その他の HP ソフトウェア ソリューションとの共存

HPOM 9.xx は、同一システム上で以下の HP ソフトウェア製品と共存できます。

- HPOM Java GUI 9.xx
- HP Operations エージェント 8.60
- HP Performance Agent 5.00
- HP Performance Manager 8.21
- OM Dependency Mapping Automation 8.20

一部の HP ソフトウェア製品がすでにインストールされているシステムには、HPOM 9.xx をインストールできません。以下の HP ソフトウェア製品は、HPOM と併用することは可能ですが、リモートシステムにインストールされている必要があります。

- SiteScope 10.10
- Network Node Manager i (NNMi) 8.xx および 9.xx

サポート中止と廃止について

本項では、HPOM の今回のリリースでサポートが中止された、または廃止された機能を示します。

注記 本項は、HPOM 8.xx から HPOM 9.10 に移行するユーザーに適用されます。

サポートが中止された **Java GUI** のプラットフォーム

- すべてのバージョンの HP-UX PA-RISC
- HP-UX Itanium 11.23
- Sun Solaris 8 および 9
- Red Hat 8
- 10.3 以前のバージョンの MacOS X

HPOM Java GUI は、組み込みブラウザ機能をサポートしなくなりました。

サポートが中止された **HPOM** エージェントのプラットフォーム

- HP MPE/iX
- HP-UX 10.20、11.00、11.22 (Itanium)
- Linux カーネル 2.2 および 2.4 のすべての派生製品
- Microsoft Windows 2000 (すべてのエディション。ただし、Microsoft 延長サポート契約を締結している場合を除く)
- Microsoft Windows 2003 (ただし SP を除く)
- Microsoft Windows NT 4.0
- Microsoft Windows XP (SP1 以前)
- Novell NetWare 4.x
- OpenVMS 7.3.1
- RedHat Enterprise Linux 2.1、3.x
- Tru64 UNIX

注記 HPOM 9.xx にはバージョン 8.60 のエージェントが付属します。HPOM 9.xx は、バージョン 8.x のその他の HTTPS エージェントとも通信できます。

Motif UI

管理用の Motif UI はサポートされなくなりました。代わりに Web ベースの管理 UI が使用されます。新しい管理 UI の詳細は、6 ページの「HPOM の Web ベースの管理」を参照してください。

オペレータ用の Motif UI はサポートされなくなりました。代わりに Java GUI を使用してください。

テンプレート管理者

Motif UI の機能の一部であるテンプレート管理ユーザーはサポートされなくなりました。テンプレート管理ユーザーを使って HPOM 管理 UI にログインすることはできません。テンプレート管理ユーザーを HPOM にアップロードまたは作成しても、HPOM 管理 UI では使用されません。

HPOM 管理 UI へのログインには、テンプレート管理ユーザーの代わりにユーザー `ompolicy_adm` を使用します。または、HPOM 管理 UI ユーザーを新規作成し、ユーザー グループ `ompolicy_adm` に割り当てます。HPOM 管理 UI ユーザーには、すべてのポリシーを表示、編集する権限があります。まず、`admin` または `opc_adm` として HPOM 管理 UI にログインし、ポリシー管理ユーザーを追加してユーザー グループ `ompolicy_adm` に割り当てます。

テンプレート管理ユーザーのアカウントを HPOM `ompolicy_adm` アカウントに変換するユーティリティも用意されています。詳細は、『*HPOM Administration UI Administration and Configuration Guide*』の「[User Migration from HPOM 8.xx to AdminUI](#)」の章を参照してください。

DCE 通信

DCE のサポート中止には、DCE ベースのエージェント、DCE ベースのエージェントとの通信、管理サーバーとの間での DCE ベースのメッセージ転送、メッセージの上位転送、DCE セキュリティ (セキュリティ ライブラリ)、OpenAgent アーキテクチャ、Novell Netware エージェント、RPC デーモン エージェント、Sun RPC エージェントのサポート中止が含まれます。また、HPOM 管理サーバーで行われる DCE RPC ベースの通信は、キューとパイプのメカニズムに変更されました。

opcmgrdist ユーティリティによる HPOM サーバーからサーバーへの設定のアップロード

opcmgrdist ユーティリティによるサーバーからサーバーへの設定のアップロードはサポートされなくなりました。opccfgdwn を使ってサーバー A の設定データをダウンロードし、たとえば、セキュア コピー (scp) を使ってそのデータをサーバー B にコピーすれば、opccfgupld を使ってデータをサーバー B にアップロードできます。

オペレータ起動メッセージの上位転送

HPOM オペレーショナル GUI の [上位転送] ボタンで別の HPOM サーバーに HPOM メッセージを転送または上位転送する機能はサポートされなくなりました。

廃止された管理サーバー プロセス

以下の HPOM プロセスは廃止されました。

- ovoareqhdlr
- opccmm
- opcctlm
- opcdistm
- opcmgrdist
- opcmsgrd

libnspsv ライブラリ

libnspsv ライブラリは非推奨となりました。ただし、後方互換性のために現在も HP Operations 管理サーバーに残されています。以前のバージョンでこのライブラリにリンクされていた統合、アプリケーション、スクリプトは引き続き使用可能です。

HPOM プロセスに対するコントロールの変更

HPOM コントロール マネージャ (opcctlm) は廃止されました。HPOM プロセスに対するコントロールは、OV Control 機能 (ovcd プロセス) に移されました。コントロール マネージャの一部の機能は、HPOM Request Sender (ovoareqsdr) に移されました。HPOM プロセスは、ovc および opcsv CLI を使用して制御できますが、HPOM 管理サーバーと同じシステムでは Network Node Manager が実行されなくなったため、ovstart、ovstop、および ovstatus CLI を使用して制御することはできなくなりました。

NNM 7.x との統合

NNM 7.x は、HPOM と同じシステムにインストールすることができず、HPOM と統合することはできません。このため、NNM との統合はサポートされなくなりました。これに伴い、HPOM は OV_PLATFORM タイプのアプリケーションとの統合をサポートしなくなりました。たとえば、OV Applications や OV Services は今後は使用されません。また、オペレータ netop および itop も廃止されました。

HPOM をインストールしても opcctrlovw ファイルセットは提供されませんが、以前のバージョンから移行することは可能です。

Service Navigator Value Pack (SNVP)

HPOM 9.xx では、新しいバージョンの SNVP を使用できません。代わりに利用できる製品としては、HP Dependency Mapping Automation ソフトウェア、および HP Operations Manager i ソフトウェアが考えられます。

廃止された CLI と CLI オプション

HPOM 管理サーバーでは、NNM により提供されるすべての CLI を使用できなくなりました。このため、ovstart、ovstop、ovstatus、ovw、ovaddobj などの CLI はなくなりました。NNM コマンドを利用している作業手順やスクリプトを確認し、必要に応じて適切な変更を加えてください。廃止されたその他の CLI は以下のとおりです。

- opc_backup
- opc_recover
- opcauddwn
- opccfgdwn: -subproduct および -platform オプション
- opccfgupld: -ascii オプション
- opccfgupld: -deloldtemppls オプション
- op clic
- opcmgrdist
- opcmomchk: -escalation オプション
- opcpwd
- opcsvreg
- opcsvskm
- opctmplrpt
- opctranm
- ovbackup.ovpl
- ovrestore.ovpl

注記

opccfgupld -help を実行すると、opccfgupld -ascii オプションが表示されます。このオプションの説明は、opccfgupld のマニュアル ページに記載されています。

廃止された設定変数

- DCEMR_PROG
- DISTM_PROG
- LISTENER_NAME
- OPC_CFG_KEY_TAB
- OPC_CFG_SEC_LEVEL
- OPC_COMM_PORT_DISTM
- OPC_DISABLE_EXT_DCE_SRV
- OPC_DOWNLOAD_TEMPL_INDIVIDUAL
- OPC_SKIP_DCE_FORWARDING
- OPC_FORWARD_MGR_DCE_QUEUE
- OPC_CHK_DCE_ADDR_MISMATCH
- OPC_FORWARD_MGR_DCE_PIPE
- OPC_COMM_LOOKUP_RPC_SRV
- OPC_COMM_PORT_RANGE
- OPC_HBP_USE_ALL_PROTOCOLS
- OPC_HPDC_CLIENT_DISC_TIME
- OPC_OPCCTLM_KILL_OPDCUIWWW
- OPC_OPCCTLM_START_OPDCSVCAM
- OPC_RESTART_COUNT
- OPC_RESTART_DELAY
- OPC_RESTART_PROCESS
- OPC_RESTART_TIMEFRAME
- OPC_SKIP_DCE_FORWARDING
- OPC_USE_DCE_FORWM
- OPC_TRANM_TIMEOUT
- OPC_MSGM_USE_GUI_THREAD
- OPC_COMM_REGISTER_RPC_SRV
- OPC_COMM_RPC_PORT_FILE
- OPC_DCE_TRC_OPTS
- OPC_MSG_FORW_CHECKALIVE_INTERVAL
- OPC_MSGFORW_BUFFERING

廃止された API

- `opcsync_inform_user()`
- `opcmsg_escalate()`

廃止されたドキュメント

HPOM には、以下のドキュメントは付属しなくなりました。

- *Service Navigator Concepts and Configuration Guide*
このドキュメントに記載されていた情報は、『*HPOM Administrator's Reference*』や『*HPOM Java GUI オペレータガイド*』など、HPOM のその他のマニュアルで提供されます。
- *HPOM Developer's Reference*
- *HPOM Application Integration Guide*
- *HPOM Security Advisory Guide*

その他

- RHEL では NIS+ を使用できなくなったため、NIS+ はサポートされなくなりました。代わりに LDAP を使用してください。
- 管理サーバーでは ECS Designer はサポートされなくなりました。
- 表現 `<s>` および `<nS>`
テンプレートで使用されていたパターン マッチング表現 `<s>` および `<nS>` は廃止されました。
- 廃止された `itooipc` パラメータ
— `which_browser`

サポート中止と廃止について

- web_browser_type の値 auto および manual
- ice_proxy*
- web_browser_html_appl_result
- 設定変数 OPC_JGUI_INTERNBW_DISABLED で廃止された値
 - EMBEDDED
 - BOTH
- HPOM Web ページへの接続に使用されなくなったポート : **3443**

インストールに関する注意点

HPOM のインストール要件とインストール手順は、『*HPOM Installation Guide for the Management Server*』に記載されています。インストールが完了すると、このドキュメントは以下の場所に格納されます。

`/opt/OV/www/htdocs/ito_doc/C/manuals/InstallationGuide.pdf`

最近の更新を探したり、使用しているエディションが最新であるかどうかを確認するには、HP のサポート Web サイトにアクセスしてください。

HPOM 9.xx は、製品のインストールと設定に新しいアプローチを採用しています。HPOM のインストールスクリプト (ovoinstall) と設定スクリプト (ovoconfigure) が導入されたことで、管理サーバーへの HPOM ソフトウェアのインストールと設定は迅速かつ容易になりました。これらのスクリプトは、インストールと設定のすべての手順をユーザーに順に提示します。

一般的なインストール要件については、『*HPOM Installation Guide*』の第 1 章「*Installation Requirements for the Management Server*」を参照してください。

HPOM のインストールと設定の前提条件、およびインストールと設定の手順の詳細は、『*HPOM Installation Guide for the Management Server*』を参照してください。

HPOM メディア DVD に収録されている readme ファイル (/README.txt) には、HPOM メディア DVD の内容と構成、および製品とマニュアルの保存場所に関する説明があります。

ヒント *HPOM Software Release Notes* の最新バージョンは常に、HP Web サイトから英語版を入手できます。日本語版が翻訳、公開されるまでに若干の遅れが生じることがあります。何らかの問題に直面したときに、日本語版より新しい英語版の *HPOM Software Release Notes* が存在する場合は、最初に英語版を確認されることをお勧めします。

ハードウェア要件

システムが以下のハードウェア要件を満たしていることを確認してください。

- HTTPS エージェントは最大で 300 MB のディスク容量を必要とし、インストールまたはアップグレード時には最大で 600 MB を必要とします。

ソフトウェア要件

本項では、HP のサポート マトリクスに記載されていない追加のソフトウェア要件を示します。HPOM 管理サーバーおよび HTTPS エージェントがサポートされるオペレーティング システムに適用される最新の更新を調べるには、以下の URL にアクセスしてください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/document/KM323488>

適切な製品サポート サービスに登録している場合は、更新エディションや新規エディションも提供されます。詳細は、当社の営業担当者までお問い合わせください。

管理サーバー

管理サーバーのソフトウェア要件については、『*HPOM Installation Guide for the Management Server*』を参照してください。

HPOM のインストール方法の詳細については『*HPOM Installation Guide for the Management Server*』の第 2 章、既知の問題と回避策については 31 ページの「既知の問題、制限、回避策」を参照してください。

注記 管理サーバー上で PATH 変数に以下の HPOM ディレクトリを設定しておく作業がはかどります。
/opt/OV/bin、/opt/OV/bin/OpC、/opt/OV/nonOV/perl/a/bin、および
/opt/OV/bin/OpC/utils
同様に、HPOM のマニュアル ページにアクセスするには、MANPATH 変数をエクスポートします。
export MANPATH=\$MANPATH:/opt/OV/man

Oracle データベース

サポートされる Oracle データベースのバージョンは、11.1.0.7 パッチ セットを適用した 11g リリース 1、および 11g リリース 2 です。セキュリティと信頼性の重要な拡張を利用するには、これらのバージョンの Oracle データベースをインストールする必要があります。

Oracle 互換パラメータは、Oracle によって必ず互換性が維持されるリリースを指定します。HPOM をインストールすると、Oracle 互換パラメータはデフォルトでは 11.1.0.0 に設定されます。

重要 Oracle バイナリは、HPOM 9.xx のインストール前にインストールしてください。ただし、HPOM では特定の設定が必要になるため、データベースは一切作成しないでください。

Oracle 11g リリース 2 のオペレーティング システム要件は、Red Hat Enterprise Linux 4 Update 7 または Red Hat Enterprise Linux 5 Update 2 です。

Oracle データベースで前提条件とされる、いくつかの OS パッケージをインストールする必要があります。これは、以下の場所でダウンロードできます。

- **Oracle 11.1 の場合 :** <http://www.oracle.com/technology/pub/articles/smiley-11gr1-install.html>

必要パッケージのバージョン (これ以降のバージョンが有効です):

```
compat-libstdc++-33-3.2.3-61
elfutils-libelf-0.125-3.e15
elfutils-libelf-devel-0.125-3.e15
glibc-2.5-12
glibc-devel-2.5-12
glibc-common-2.5-12
gcc-4.1.1-52.e15
gcc-c++-4.1.1-52.e15
kernel-headers
libgcc-4.1.1-52.e15
libaio-0.3.106-3.2
libaio-devel-0.3.106-3.2
libstdc++-4.1.1-52.e15
libstdc++-devel-4.1.1-52.e15
lm_sensors-2.10.0-3.1
net-snmp-5.3.1-19.e15
net-snmp-utils-5.3.1-19.e15
```



```
unixODBC-2.2.11-7.1  
unixODBC-devel-2.2.11-7.1  
sysstat-7.0.0-3.el5  
binutils-2.17.50.0.6-2.el5  
make-3.81-1.1
```

- **Oracle 11.2 の場合 :** http://download.oracle.com/docs/cd/E11882_01/install.112/e10861/toc.htm

必要パッケージのバージョン (これ以降のバージョンが有効です):

```
binutils-2.17.50.0.6  
compat-libstdc++-33-3.2.3  
compat-libstdc++-33-3.2.3 (32 bit)  
elfutils-libelf-0.125  
elfutils-libelf-devel-0.125  
gcc-4.1.2  
gcc-c++-4.1.2  
glibc-2.5-24  
glibc-2.5-24 (32 bit)  
glibc-common-2.5  
glibc-devel-2.5  
glibc-devel-2.5 (32 bit)  
libaio-0.3.106  
libaio-0.3.106 (32 bit)  
libaio-devel-0.3.106  
libaio-devel-0.3.106 (32 bit)  
libgcc-4.1.2  
libgcc-4.1.2 (32 bit)  
libstdc++-4.1.2  
libstdc++-4.1.2 (32 bit)  
libstdc++-devel 4.1.2  
make-3.81  
sysstat-7.0.2  
unixODBC-2.2.11  
unixODBC-2.2.11 (32 bit)  
unixODBC-devel-2.2.11  
unixODBC-devel-2.2.11 (32 bit)
```

パッケージは、オペレーティングシステムの公式サイトで入手できます。

デフォルトでは、HPOM は Oracle リスナーにポート **1521** を使用します。このポートを使用する場合は、`/etc/services` ファイルで `ncube` ポートがコメントアウトされていることを確認してください (システムにこのファイルが存在する場合)。

```
# cat /etc/services |grep ncube
```

```
#ncube-lm 1521/tcp # nCube License Manager  
#ncube-lm 1521/udp # nCube License Manager
```

Oracle データベースのインストールと設定の詳細は、『*HPOM Installation Guide for the Management Server*』を参照してください。

Java GUI

HPOM Java GUI をインストールする前に、システムが本項で説明するハードウェアおよびソフトウェア要件を満たしていることを確認してください。

HPOM には、サポートされるすべての MS Windows プラットフォーム用の JRE がバンドルされています。これ以外のすべてのプラットフォームについては、必要な Java Runtime をダウンロードする必要があります。

表 1 サポート マトリクス - Java GUI

Java Runtime	JRE	JRE Plug-in	JRE Plug-in	JRE Plug-in
タイプ	アプリケーション	Internet Explorer 5.5、6、7、8	Safari 1.3.2	Mozilla 1.7
Windows 2000 Windows XP Windows 2003 Windows Vista Windows 7	1.6.0_12	1.6.0_12	該当なし	1.6.0_12
Windows 2003 for Itanium	該当なし	1.6.0_12	該当なし	1.6.0_12
Red Hat Enterprise Linux 5.2、5.3、5.4、5.5 Solaris 10	1.6.0_12	該当なし	該当なし	1.6.0_12
HP-UX Itanium 11.31	1.6.0_10	該当なし	該当なし	1.6.0_10
Mac OS X	1.6.0_7	該当なし	1.6.0_7	1.6.0_7

ご使用のオペレーティングシステムで、インストールされているデフォルトの JRE のバージョンが HPOM に必要な上記のいずれかのバージョンでない場合は、以下の Web サイトから、サポートされているバージョンの JRE をインストールしてください。

<http://www.hp.com/products1/unix/java/>

JRE をインストールしたディレクトリの位置を、次の例のように JAVA_DIR 環境変数に設定します。

```
export JAVA_DIR=/opt/OV/nonOV/jre/b
```

HTTPS エージェント

HPOM 9.10 には HP Operations エージェント 8.60 が付属します。HPOM 9.10 は、バージョン 8.xx のその他の HP Operations エージェントとも通信できます。サポートされる HP Operations エージェントのバージョン、プラットフォーム、既知の問題と回避策の詳細は、以下の場所にある HP Operations エージェントのリリースノートを参照してください。 <http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

HP Operations エージェントをインストールするための前提条件として、システムは、オペレーティングシステムに固有のソフトウェアおよびハードウェア要件を満たしている必要があります。サポートされるプラットフォームと要件は、以下の Web サイトで確認できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/document/KM323488>

重要 HPOM エージェントのインストールを HPOM 管理サーバーから行う場合は、リモート エージェントで REXEC、RSH、または SSH サービスが有効化されていることを事前に確認してください。サービスが有効化されていない場合、エージェントのインストールは失敗します。

注記 インストール時は、Linux RedHat AS 4 64 ビット オペレーティング システムに適したマシン タイプを選択してください (linux/x86/linux26 ディレクトリ内のエージェントを使用する必要があります)。

Platform Selector	Machine Type	OS Name
linux/x86/linux26	Intel/AMD x86 (HTTPS)	Linux 2.6

インストールに関する既知の問題と回避策

症状 QCCR1A95802

VMware を使ってテンプレートから **RHEL OS** をインストールした後に、**/etc/hosts** ファイルに誤ったエントリが出力される

VMware を使ってテンプレートから RHEL システムをインストールした場合は、**/etc/hosts** ファイルの以下の行を確認してください。

```
127.0.0.1      localhost.localdomain localhost
```

VMware によるテンプレートの配布によってこのエントリが変更され (ホスト名の追加)、HP Operations 管理サーバーのインストール時に問題が生じる場合があります。

対策

この行の内容が上記と異なる場合は、HP Operations 管理サーバーをインストールする前に修正してください。

症状: 削除中またはアップグレード中にエラーが生じる

HP Operations 管理サーバーが依存するパッケージと同じパッケージに依存する製品がシステムに残される場合、管理サーバーを削除またはアップグレードしようとする以下エラーが生じる可能性があります。

- 削除時:

```
ERROR:      Error occurred while removing HPOvTomcatB package
             Please check /var/opt/OV/log/OpC/mgmt_sv/installation.log.error
             for details
```

- アップグレード時:

```
Removing local Agent . . . . . OK
Removing SPIs . . . . . OK
Stopping Server . . . . . OK
Removing database . . . . . OK
Removing documentation . . . . . OK
Removing Agent software . . . . . FAILED
```

インストールに関する注意点

対策

削除を続ける前に、ログ ファイルの内容を確認します。別のパッケージとの依存関係が原因でエラーが生じている場合は、その依存関係の原因であるパッケージを削除しても問題がないかどうか確認します。そのパッケージを削除したら、以下のように管理サーバーの削除を繰り返します。

```
[repeat,skip,back,exit,?] : repeat
    Removing Agent software . . . . . OK
```

これらのパッケージがシステムに必要な場合は、エラーの発生時に skip を選択して削除を継続します。次に例を示します。

```
[repeat,skip,back,exit,?] : skip
```

症状 QCCR1A98812

ORA-01450 (最大キー長さ (6398) 超過) というエラーでリモート データベースの設定が失敗する

HPOM をインストールし、リモート データベースとしてデータベースを作成した後で、データベースの設定が以下のエラーで失敗します。

```
Error opcdbinst(6722) : Database: ORA-01450: maximum key length (6398) exceeded <
    (OpC50-15)
```

```
Aborting installation of HPOM tables in database. (OpC55-1)
```

```
ERROR: Error occurred in the program opcdbinst during creation of the
    database tables.
```

対策

データベースのデフォルト ブロック サイズである **8K** ではなく、『*HPOM Installation Guide for the Management Server*』で説明されているように **16K** を使用してください。

```
db_block_size 16384
```

重要

指定したブロック サイズを後から変更することはできません。デフォルト ブロック サイズを使用している場合は、そのデータベースを削除し、適切な db_block_size を指定して再作成する必要があります。

症状 QCCR1A104494

パイプ **rqsccep** を開くことができない

HPOM のインストール後に、System.txt に以下のエラーが出力されます。

```
0: ERR: Mon Jun 21 13:49:51 2010: opcdispn (8348/1): [mpisv.c:816]: Cannot open pipe
/var/opt/OV/share/tmp/OpC/mgmt_sv/rqsccep. open(2) failed.No such device or address
(OpC40-616)
```

対策

ありません。

症状 QCCR1A110546

ローカル エージェントのインストール中に **ovoinstall** にエラーが出力される

ovoinstall の実行中に、以下のメッセージが表示される場合があります。

```
Starting Server . . . . . OK
Installing local Agent . . . . . FAILED
ERROR: Agent installation failed. Please check
/var/opt/OV/log/OpC/mgmt_sv/installation.log for details.
```

ログ ファイルの内容は以下のとおりです。

```
...
Installing HPOvAgtEx package.
Updating HPOM database now that HPOM on system <mgmt. sv.> has been successfully installed
or activated.
ERROR: Cannot update HPOM software status flag on database for system <mgmt. server>.
```

対策

1. 以下の方法でサーバー プロセスを再起動します。

```
# /opt/OV/bin/ovc fkill
```

```
# /opt/OV/bin/ovc fstart
```

2. フラグを手動で以下のように設定します。

```
#/opt/OV/bin/OpC/opcs w finstalled [<mgmt. sv hostname>]
```

以前のバージョンの製品からの移行

HPOM 9.10 がサポートしていない OS (Solaris 8 または Solaris 9、Itanium 上の HP-UX on PA-RISC または HP-UX 11i v2) に HPOM 8.xx がインストールされている場合は、サポートされるオペレーティング システムを実行している別のシステム上の HPOM 9.10 に移行できます。詳細は、『*HPOM Installation Guide for the Management Server*』を参照してください。

注記

HPOM 9.10 では、ポリシー、ポリシー グループ、ツール、ツール グループの名称に含まれる「NT」という文字列は「Windows」に変更されました。たとえば、「NT ツール」という名称は「Windows ツール」に変更されます。

HPOM の旧バージョンから移行するときは、古い設定データを管理サーバーにアップロードします。「NT」という文字列が使われている古いポリシー、ポリシー グループ、ツール、ツール グループは、同様のオブジェクトの名前に「Windows」という文字列が使われているシステムにアップロードされます。このため、これらのオブジェクトは移行されずに複製されます。

オブジェクトの複製はシステムに影響を生じませんが、新しい設定に移行することをお勧めします。新しい設定に移行するには、古いオブジェクト(名前に「NT」という文字列が含まれる)が配布されているすべてのノードに対して新しいオブジェクト(名前に「Windows」という文字列が含まれる)を割り当てます。以下のシナリオが考えられます。

- 古いポリシー/ツール グループにカスタム ポリシー/ツールが含まれる場合は、それを新しいポリシー/ツール グループに移動します。このようなグループが管理対象ノードにも割り当てられている場合は、それを削除し、新しいグループを割り当てます。
- 未変更の古いポリシー/ツールが管理対象ノードに配布されている場合は、これらのノードに新しいポリシー/ツールを配布し、古いポリシー/ツールを削除します。

インストールに関する注意点

- 古いポリシーが更新されている場合は、更新済みバージョンを新しいポリシーにコピーし、古いバージョンのポリシーを削除します。その上で、このポリシーの新しいバージョンを配布します。
-

HPOM 9.10 へのアップグレード

『*HPOM Installation Guide for the Management Server*』には、HPOM 9.10 にアップグレードするための詳細な手順と、アップグレードを実行できる製品バージョンに関する情報が記載されています。

『*HPOM Installation Guide for the Management Server*』の最新バージョンについては、Web サイト (<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>) でご確認ください。

既知の問題、制限、回避策

管理サーバー

症状 QCCR1A56839

mgrconf/configsettings がポリシーとして解釈される

HPOM 9.xx では mgrconf と configsettings はポリシーであるため、これらは opctemplate -disable -all および ovpolicy -disable -all によって無効化されています。これは、予期せぬ影響を生じる場合があります。たとえば、要求側のサーバーがデフォルト マネージャとして設定されていない限り、管理サーバーがプライマリ マネージャである場合でも、管理サーバーからのステータスまたはアクションの実行は失敗します。

症状 QCCR1A58840

MOM の設定でポリシーをパーズすると、**mgrconf** ポリシーもパーズされる

MoM の設定でポリシーをパーズすると、mgrconf も含め、ノード上のすべてのポリシーがパーズされます。MoM の設定には HPOM on UNIX、HPOM on Linux、および HPOM for Windows サーバーが含まれるため、mgrconf ポリシーがパーズされると、エージェントを HPOM on UNIX または HPOM on Linux サーバーに切り替えることができません。

症状 QCCR1A95152

条件テーブルが存在しないため、**HPOM 9.xx** で **HPOM 8.xx** レポートが失敗する

HPOM 8.xx から HPOM 9.xx にアップグレードした場合も、HPOM 8.xx レポートを使用できます。ただし、HPOM 8.xx レポート (HPOM 8.xx または現在の OV Reporter および OVPI レポート パック レポートからコピーまたはカスタマイズしたレポート) が HPOM 9.xx データベースを照会する場合は、そのレポートは失敗する可能性があります。原因は、一部のテンプレートと条件テーブル (opc_monitor_cond、opc_trap_cond、opc_cond) が HPOM 9.xx でサポートされなくなったためです。

対策

opc_monitor_cond、opc_trap_cond、および opc_cond テーブルの条件が照会されなくなるように、HPOM 8.xx レポートを修正します。

症状 QCCR1A57809

名前を仮想ノードに変更しても、テンプレートが物理ノードに割り当てられる

仮想ノード名を変更してから opc_node_change.pl スクリプトを実行しても、古い仮想ノード名は削除されません。このため、古い仮想ノードへのポリシーの割り当ては変更されません。新しい仮想ノードでポリシーの割り当て解除しても、これらのポリシーは引き続き古い仮想ノードに割り当てられており、物理ノードに配布されます。

対策

opcnode コマンドを使用して、古い仮想ノード グループのポリシーを手動で割り当て解除し、そのグループのノードを削除し、そのグループを削除します。

```
# /opt/OV/bin/OpC/utils/opcnode -deassign_pol_group -node_name=<ノード名> \ -net_type=<
ネットワーク タイプ> -pol_group=<ポリシー グループ名>
# opcnode -deassign_node_group_name=<ノード グループ名> node_name=<ノード名> \ -net_type=<
ネットワーク タイプ>
# opcnode -del_group group_name=<ノード グループ名>
```

この <ノード グループ名> は、古い仮想ノード名です。

症状 QCCR1A105409**オンライン設定アップロードとサービスのサブエンティティのサポート**

HPOM 9.10 では、サービスと `seldist` ファイルは、デフォルトでは設定アップロードの一部としてアップロードされます。(HPOM 8.xx では、これは `OPC_OPCCFGDWN_ALL_INCLUDE_SELDIST_SERVICES` 変数を TRUE に設定することで有効化されていました)。このため、`opccfgupld -replace -subentity <完全アップロード>` コマンドを使って設定をアップロードすると、アップロード先サーバーでサービスと `seldist` ファイルは上書きされます。

対策

デフォルト動作を変更して設定のアップロード時にアップロード先システムでサービスと `seldist` ファイルが変更されないようにするには、これらのファイルをアップロードデータから削除します。以下のコマンドを実行します。

```
# rm <アップロード ディレクトリ>/<言語>/OTHER/SERVICES/*
# rm <アップロード ディレクトリ>/<言語>/OTHER/RESPMGRS/seldist
```

選択的ダウンロードを実行することもできます。詳細は、*opccfgdwn(1m)* のマニュアル ページを参照してください。

症状 QCCR1A90865**HPOM 8.xx の設定データのアップロード時に標準出力と `System.txt` に警告メッセージが出力される**

```
Warning - Platform missing (net/machine=1/17).
Warning - Platform missing (net/machine=1/41).
Warning - Platform missing (net/machine=1/40).
Object already available in database (opc_node_defaults: 1/43).
Warning - Platform missing (net/machine=1/27).
Object already available in database (opc_node_defaults: 1/44).
Warning - Platform missing (net/machine=1/6).
Object already available in database (opc_node_defaults: 1/49).
Object already available in database (opc_node_defaults: 1/0).
Warning - Platform missing (net/machine=1/38).
Object already available in database (opc_node_defaults: 1/47).
Warning - Platform missing (net/machine=1/11).
Object already available in database (opc_node_defaults: 1/45).
Object already available in database (opc_node_defaults: 5/20).
Warning - Platform missing (net/machine=1/26).
Warning - Platform missing (net/machine=1/9).
Warning - Platform missing (net/machine=1/8).
Warning - Platform missing (net/machine=1/10).
Object already available in database (opc_node_defaults: 1/50).
Warning: not all requested objects were processed.
```

対策

これらの警告メッセージは無視してかまいません。すべての警告は、DCE プラットフォームのアップロード時に表示されるものです。

症状 QCCR1A90937

HPOM 8.xx から 9.xx へのアップグレード時に、テンプレートグループの処理中に HPOM 9.xx の `opccfgupld` が異常終了する

これは、設定変数 `OPC_DOWNLOAD_TEMPL_INDIVIDUAL` が TRUE に設定されている場合に HPOM 8.xx システムで生じます。プログラムが 1 で終了する前に、HPOM 9.xx の `stderr`、および `opccfgupld` ログファイル (`/var/opt/OV/log/OpC/mgmt_sv/opccfgupld.log`) には以下のような行が複数出力されます: "Illegal value OSSPI_SOL_NP_FileSystems_1 (function upload: templ group conversion)"

テンプレートグループの後にアップロードされるはずであったすべてのデータはアップロードされません。

対策

1. HPOM 8.xx の設定で `OPC_DOWNLOAD_TEMPL_INDIVIDUAL` が TRUE に設定されていることを確認します。

```
# /opt/OV/bin/ovconfget -ovrg server opc OPC_DOWNLOAD_TEMPL_INDIVIDUAL
```

2. 設定されている場合は、設定を FALSE に変更して 8.xx でダウンロードを繰り返します。

```
# /opt/OV/bin/ovconfchg -ovrg server -ns opc -set OPC_DOWNLOAD_TEMPL_INDIVIDUAL FALSE
# rm -rf <以前のダウンロード ディレクトリ>
# /opt/OV/bin/OpC/opccfgdwn <前回の呼び出しのオプション> <以前のダウンロード ディレクトリ>
```

3. ダウンロードディレクトリを HPOM 9.xx システムにコピーし、アップロードを繰り返します。

```
# /opt/OV/bin/OpC/opccfgupld -replace -subentity <前回の呼び出しの追加オプション>
```

以上が完了すると、HPOM 9.xx データベースの整合性は回復するはずです。

症状 QCCR1A107431

`ovoareqsdr` (OMU Request Sender) が `ovoadif -l ovosv=1` を設定しない

`ovoareqsdr` (OMU Request Sender) は、`ovoadif -l ovosv=1` を設定しません。このため、ライセンスレポートには 1 ではなく、0 が表示されます。次に例を示します。

```
Operations Management Server
HP Operations Manager 1 0 OK ovosv
```

対策

1. 管理サーバーで以下のコマンドを実行します。

```
ovoadif -l ovosv=1 general_licmgr=<サーバーの FQDN>
```

注記 サーバーとエージェントは実行中である必要があります。

2. 以下のコマンドを実行し、ライセンス要件が設定されていることを確認します。

```
ovolicense -r -p HPOM -detailed
```

3. [ノード情報] セクションでサーバー ノードを探し、使用ライセンス (Used Licenses) を確認します。HP Operations Manager のライセンスは 1 に設定されているはずです。

症状 QCCR1A109996

ovdeploy -cmd ovodetect -host <ノード名> を実行すると、エラーが出力される

ovdeploy -cmd ovodetect -host <ノード名> コマンドを実行すると、以下のエラーメッセージが出力されます。

```
ERROR: (depl-228) Could not get OS type.  
       (depl-400) Message returned from the target node:  
       Caller is not authorized to perform the requested operation.
```

対策

以下のコマンドを使用します。

```
# ovdeploy -cmd ovodetect -host <ノード名> -ovrg server
```

症状 QCCR1A109842

ローカル エージェントで **opcragt** コマンドの **-purge** オプションが機能しない

opcragt -purge コマンドを使ってローカル ノード (HPOM 管理サーバーと同じシステムにインストールされているノード) からインストールメンテーションを削除することはできません。

対策

/var/opt/OV/bin/instrumentation ディレクトリから手動でインストールメンテーションを削除します。

症状 QCCR1A110636

IP アドレス パターンと外部ノードのマッチングが機能しない

Linux システムでは、IP アドレス パターンを指定してノードとマッチングさせることはできません。

対策

HP のサポートからホットフィックスを入手できます。

症状 QCCR1A90622

タイプが **PATTERN_OTHER** のノードの無効なネットワーク タイプ

ネットワーク タイプが PATTERN_OTHER のノードを追加すると、そのノードのネットワーク タイプは PATTERN_IP_NAME に設定されます。

対策

PATTERN_OTHER は内部的に PATTERN_IP_NAME にマッピングされるため、これは想定どおりの動作です。PATTERN_OTHER は非推奨となりました。代わりに PATTERN_IP_NAME を使用してください。

症状 QCCR1A96746

AIX LPAR ノードの証明書要求許可機能とノード追加機能が失敗する

AIX 5.3 および 6.1 では、AIX LPAR ノードの追加機能と許可機能は失敗します。

対策

1. opcnode コマンドを使ってノードを手動で追加します。次に例を示します。

```
opcnode -add_node node_name=<ノード名> net_type=NETWORK_IP group_name=linux  
mach_type=MACH_BBC_AIX_PPC
```

2. 以下のコマンドを使って証明書要求を手動で許可します。

```
# opccsa -grant <証明書要求 ID>
```

証明書要求 ID は、以下のコマンドで取得できます。

```
# opccsa -list_pending_cr
```

症状 QCCR1A95886

リモート エージェントを削除すると **System.txt** にエラー メッセージが出力される

リモート エージェントを削除または再インストールすると、管理サーバーの **System.txt** ファイルに以下のエラー メッセージが出力されます。

```
0: ERR: Wed Aug 26 13:18:48 2009: ovdeploy (8173/1): (depl-86) Unable to execute command
'opc_inst' on node '<ノード>'.
1: ERR: Wed Aug 26 13:18:48 2009: ovdeploy (8173/1): (depl-176) Message returned from host
'<ノード>':
2: WRN: Wed Aug 26 13:18:48 2009: ovdeploy (8173/1): (bbc-422)
HttpOutputRequestImpl::ReceiveResponse() caught OvXplNet::ConnectionRefusedException_t.
<NULL>
3: WRN: Wed Aug 26 13:18:48 2009: ovdeploy (8173/1): (bbc-71) There is no server process
active for address: https://<ノード>/com.hp.ov.depl/bbcrcpsrver.
0: ERR: Wed Aug 26 13:20:21 2009: ovoareqsdr (9482/1): [rqshbp.cpp:1669]: OV Communication
Broker (ovbbccb) on nod <ノード> is down. (OpC40-1913)
```

対策

これらのエラーと警告は無視してかまいません。

症状 QCCR1A103224

Java サーバー設定 API - サーバーとエージェント API の組み合わせの問題

クライアントとサーバーの両方の **Java** API を使用する **Java** プログラムは、失敗する可能性があります。たとえば、プログラムがクライアント **Java** API を使用し、その上でサーバー **Java** API に基づくコードの使用を試みた場合、そのプログラムは失敗する可能性があります。

対策

プログラムの先頭に以下の行を追加し、サーバー ライブラリを強制的にロードします。

```
System.loadLibrary("jopcsrvbase");
```

症状 QCCR1A90462

opcconn_cs_reset() がステータス メッセージをリセットしない場合がある

API 関数 **opcconn_cs_reset()** を呼び出した後に、ステータス メッセージがリセットされない可能性があります。

対策

常に正しいメッセージを取得するには、**opcconn_cs_reset()** を呼び出した後に、「message」パラメータに空の文字列 (NULL ではない) を指定して **opcconn_cs_set()** を呼び出します。

症状 QCCR1A110001

オンライン復元の実行中に「**ovconfget not found**」エラーまたはフェールオーバーが生じる

オンライン復元スクリプトの実行中に、「**ovconfget not found (ovconfget が見つからない)**」エラーが出力される場合があります。

また、クラスタ環境では、データベースの復元中に **Oracle** クラスタ グループの監視機能がアクティブ状態で維持されます。これは、フェールオーバーの原因となります。

対策

オンライン復元スクリプトを呼び出す前に、以下の方法で Oracle リソース グループの監視機能を停止します。

```
# /opt/OV/lbin/ovharg -monitor ov-oracle disable
```

この機能は、復元手順が正しく完了した後に、以下の方法で再有効化できます。

```
# /opt/OV/lbin/ovharg -monitor ov-oracle enable
```

症状 QCCR1A90808

**System.txt: There is no server process active for address:
'https://localhost/com.hp.ov.agtrep.notificationreceiver/bbcrpcserver'**

このエラー メッセージは、ovconfchg を実行するたびに System.txt に出力される可能性があります。

対策

タイプが svcdisc のポリシーがエージェントに配布されていない限り、このエラー メッセージは無視してかまいません。

症状 QCCR1A96506**MoM の変更が検出されない**

メッセージ マネージャは、ovconfchg ユーティリティの起動後でも、msgforw ファイルに加えられた変更を検出しないことがあります。メッセージ マネージャが設定ファイルの読み取りを自動的に再実行しない場合は、メッセージ マネージャ プロセスを手動で再起動してください。

対策

以下のコマンドを使ってメッセージ マネージャ プロセスを再起動します。

```
# ovc -restart opcmsgm
```

症状 QCCR1A110093**opcinstrif ツールが、設定値に含まれる文字列全体を認識しない**

指示インタフェースの追加時に、コマンドライン ユーティリティ opcinstrif は、入力ファイルに含まれる文字列全体を使用しません。opcinstrif ツールを使って指示インタフェースを追加する場合、INSTRUCTION_INTERFACE、DESCRIPTION、および INSTR_INTERF_CALL フィールドの値として、指定した文字列の最初の部分 (最初の空白文字までの文字列) のみが使用されます。

対策

opcinstrif ツールではなく、管理 UI を使用して指示インタフェースを追加します。

症状 QCCR1A105603

ノースバウンド インタフェースを介して NNMI と統合した HPOM で、「ターゲット コネクタ」ライセンスの不足に関連するエラーが出力される

誤った数のターゲット コネクタ ライセンスが必要であることが、ライセンス レポートに示される場合があります。

対策

HP 製品から出力されるメッセージを生成するノードでは、ターゲット コネクタ ライセンスは必要ありません。したがって、必要なターゲット コネクタ ライセンスの数を調べるには、レポートに示されるノードのうち、いくつのノードに HP 製品がインストールされているかを手動で確認し、HP 製品がインストールされたノードの数を総数から差し引きます。

症状 QCCR1A95948

デフォルトでは、ユーザー `opc_adm` の NNMi グループが表示されない

デフォルトでは、ユーザー `opc_adm` のメッセージ グループ NNMi の担当作業範囲は設定されません。

対策

以下のコマンドを実行し、ユーザーの担当作業範囲を手動で追加します。

```
/opt/OV/bin/OpC/opccfguser -v -assign_respons_user -user opc_adm -node_group \  
-list <ノード グループ> -msg_group -list NNMi
```

症状 QCCR1A91821

別の HP Performance Manager サーバーで HP Performance Manager ツールを実行すると、HP Performance Manager 統合のインストール前にクリーンアップが必要になる

新しいバージョンの HP Performance Manager をインストールまたはアップグレードした後も、HP Performance Manager では古い HP Performance Manager サーバー名が使われ続けます。問題は、HP Performance Manager のインストール スクリプトが、データベース内の HP Performance Manager サーバー名を書き換ええないことです。

```
/opt/OV/contrib/OpC/OVPM/install_OVPM.sh <新しい OVPM サーバー>:8081
```

対策

HPOM 管理サーバーに新しい HP Performance Manager サーバーをインストールする前に、HP Performance Manager のすべてのポリシーとツールを削除します。次に例を示します。

```
/opt/OV/bin/OpC/opcappl -del_app app_name="OVPM Global History"  
/opt/OV/bin/OpC/opcappl -del_app app_name="OVPM HTML contrib"  
/opt/OV/bin/ovconfchg -ovrg server -ns opc -clear OPC_OVPM_GRAPH
```

症状 QCCR1A94498

インストール時に設定しなかった場合の HP Performance Manager の設定方法

対策

HPOM のインストール時に HP Performance Manager をインストールせずに、後からインストールする場合は、以下のコマンドを実行します。

```
# /opt/OV/contrib/OpC/OVPM/install_OVPM.sh <ノード名>:<ポート>
```

次に例を示します。

```
# install_OVPM.sh elisa.deu.hp.com:8081
```

症状 QCCR1A97123

HPOM サーバーと共に PM をインストールした場合に、「`ovpm stop`」によって `ovtomcatB` プロセスが停止される

HPOM サーバーがインストールされているシステムに HP Performance Manager 8.21 をインストールし、`/opt/OV/bin/ovpm stop` コマンドを使って `ovpm` プロセスを停止すると、`ovtomcatB` プロセスも停止されます。`ovtomcatB` の停止中は、HPOM 管理サーバーに Web アクセスすることができず、HPOM の HTML マンページ、マニュアル、Java GUI ランチャーなどを表示できません。

対策

以下のコマンドを実行します。

```
/opt/OV/bin/ovc -start ovtomcatB
```

症状 QCCR1A96745

エージェントのローカライズ パッケージとの依存関係により、**ovoremove** が **HPOvXpl** の削除に失敗する

HPOvXpl を削除するときに、ovoremove は以下のエラーで失敗します。

```
HPOvSecCo      (6.20.050) . . . . Removed
HPOvXpl       (6.20.054) . . . . FAILED
ERROR:        Error occurred while removing HPOvXpl package
Please check /var/opt/OV/log/OpC/mgmt_sv/installation.log.error for details.
```

対策

skip を選択し、このエラーを無視してください。別の製品がこれらのパッケージを必要としていない場合は、ovoremove の完了後に手動で削除します。以下のコマンドを使用します。

```
# rpm -e HPOvXpl HPOvLczC HPOvLces HPOvLcko HPOvLcja
```

症状 QCCR1A90795

どのオペレータの **Java GUI** にも **SiteScope** ツールが表示されない

SiteScope 統合は一連のツールを HPOM データベースにアップロードしますが、デフォルトでは、これらのツールはどのオペレータにも割り当てられず、Java GUI には表示されません。

対策

opccfguser コマンドまたは管理 GUI を使って SiteScope ツールを手動でオペレータに割り当てます。詳細は、*opccfguser(1m)* のマニュアル ページを参照してください。

症状 QCCR1A96583

ノード名の最大長さにバラツキがある

データベースが受け付ける 1 つの完全修飾ドメイン名 (FQDN) の最大文字数は 2048 ですが、DNS サーバー、オペレーティング システム レベル、またはその他のプログラムによる制限が存在し、これらのノードに対して HPOM が正常に機能しない場合があります。

対策

FQDN が 256 文字を超えないようにします。超えてしまう場合は、`/etc/hosts` ファイルに IP/nodename エントリを追加することで解決できる場合があります。

症状 QCCR1A90167/QCCR1A92949

DNS に名前が存在する場合に、非 IP ノードが解決される

DNS に登録されている非 IP ノードを追加しようとすると、そのノードのネットワーク タイプは OTHER から IP に変更され、警告が返されます。この結果、非 IP ノードのネットワーク タイプが IP になります。

次に例を示します。

```
# /opt/OV/bin/OpC/Utils/opcnode -add_node node_name=ovruxt62.rose.hp.com \
net_type=NETWORK_OTHER mach_type=MACH_BBC_OTHER_NON_IP group_name=hp_ux layout_group=/
```

```
Warning: Mismatch between node name and IP address (according to the DNS)
Please check to which IP address the hostname is resolved
and if that IP is resolved back to the original hostname.
```

```
Operation successfully completed.
```

opcnode -list_nodes を使って調べると、ノードが MACH_BBC_OTHER_NON_IP プラットフォームの IP ノードとして追加されていることを確認できます。

```
# /opt/OV/bin/OpC/Utils/opcnode -list_nodes node_list=ovruxt62.rose.hp.com
```

List of all Nodes in the HPOM database:

```
=====
Name          = ovruxt62.rose.hp.com
Label         =
IP-Address    = 15.8.156.145
Network Type  = NETWORK_IP
Machine Type  = MACH_BBC_OTHER_NON_IP
Comm Type     = COMM_BBC
DHCP enabled  = no (0x22)
=====
```

対策

IP ノード (IP アドレスを持つ、解決可能なノード) を非 IP ノードとして追加することはできません。opcnode -chg_machtype を使って non_ip/other/other の無効なプラットフォームを変更してください。

次に例を示します。

```
# /opt/OV/bin/OpC/utils/opcnode -chg_machtype node_name=ovruxt62.rose.hp.com \
net_type=NETWORK_IP mach_type=MACH_BBC_OTHER_IP
```

症状 QCCR1A97290

Oracle サービス (\$ORACLE_HOME/network/admin/listener.ora) が無効な場合、管理 UI は HPOM サーバーに接続できない

OvProtect ユーティリティを使って \$ORACLE_HOME/network/admin/listener.ora を修正し、Oracle サービスを無効にした場合は、管理 UI は管理サーバーに接続できません。

対策

OvProtect ユーティリティを使って Oracle サービスを無効にしないでください。

症状 QCCR1A92537

パイプ oprtjnitp を開くことができない

HPOM のインストール後に、System.txt に以下のエラーが出力されます。

```
0: ERR: Fri May 15 19:03:23 2009: opcdispn (15894/1078278464): [mpisv.c:816]: Cannot open
pipe
/var/opt/OV/share/tmp/OpC/mgmt_sv/oprtjnitp. open(2) failed. No such device or address
(OpC40-616)
```

対策

ありません。

症状 QCCR1A97644

空の名前のサービスを追加しても警告が出力されない

opcsercvice - add <ファイル> コマンドを使って名前を持たないサービス (<MsgSvcName></MsgSvcName>) を追加しても、エラー メッセージは出力されません。ただしサービスの追加後に、このサービスに属する別のサービスの履歴などを検索すると、以下のようなエラー メッセージが出力される場合があります。

```
Database: ORA-01400: cannot insert NULL into
"OPC_OP"."OPC_SERVICE_MSGS"."MSG_SERVICE_NAME"
```

このエラーが生じるのは、Oracle データベースでは MsgSvcName を空にできないためです。

対策

XML ファイルから <MsgSvcName></MsgSvcName> という行を削除します。

症状 QCCR1A103457

サービスの深さが正しく表示されない

サーバーに追加されているサービスの詳細リストを表示したときに、サービスの深さの値が表示されません。

対策

無視してください。これは、管理サーバーと Java GUI の機能に影響しません。

症状 QCCR1A62118

Linux で実行中の CB との間で 1000 個の持続的接続を作成しようとする **ovbbccb** が異常終了する

Linux 環境では、ovbbccb プロセスに一度に 1000 を超える接続が試みられると、このプロセスはハングする場合があります。

対策

これは、HP Operations エージェントの次回のパッチで修正される予定です。それまでの間は、HP のサポートから入手できる L-Core ホットフィックスを使用してこの問題を解決してください (QCCR1A62118)。

症状 QCCR1A110002

移行とデスクトップのライセンスがレポートされない

一部のライセンスは、インストールされ、有効な場合でもレポートされず、ライセンス レポートに表示されない場合があります。

対策

移行ライセンスのレポート機能は、2010 年 7 月下旬に公開予定の単独パッチ (製品構造パッチ) で提供する予定です。

Java GUI

症状 QCCR1A95972

itoopbrw のカラム フィルターがクイック フィルターに適用されない

クイック フィルターを開くときに、itoopbrw のカラム フィルターが適用されません。

対策

開いているブラウザにカラム フィルターを手動で適用してください。

症状 QCCR1A103706

10 を超える数の Java クライアントを OML サーバーに HTTPS 接続することができない

10 を超える数の Java GUI クライアントを安全な HTTPS 接続を使って (opcuihttps) 管理サーバーに接続しようすると、エラーが生じます。デフォルトでは、安全な HTTPS 接続を使って管理サーバーに接続できる Java GUI クライアントの数は 10 に制限されています。

対策

安全な接続を使ってより多くの Java GUI クライアントを管理サーバーに接続するには、`/etc/xinetd.d/ito-e-gui` ファイルを以下のように設定します (値を変更するのは、`per_source`、`instances`、`cps`)。

```
service ito-e-gui
```



```
{
    flags          = REUSE
    socket_type    = stream
    wait          = no
    user          = root
    server        = /opt/OV/bin/OpC/opcuiwww.sh
    log_on_failure += USERID
    disable       = no
    per_source    = UNLIMITED
    instances     = UNLIMITED
    cps          = 50 1
}
```

加えた変更を有効にするには、以下のコマンドを使って xinetd を更新します。

```
# /etc/init.d/xinetd reload
```

症状 QCCR1A108463

短いホスト名を使用した場合に、**Java GUI** エラー「ツールは再接続のため中断しました」が出力される

カスタマイズしたツールを起動し、短いホスト名でノードを追加すると、「ツールは再接続のため中断しました」というエラーが生じます。

対策

代わりに長いホスト名を使用します。

症状 QCCR1A97287

opcuihttps が複数のコアダンプを生成する

opcuihttps プロセスは、停止時にコアダンプを生成することがあります。このため、**Java GUI** は安全な通信層 (HTTPS) を介して接続できません。

対策

opcuihttps プロセスを手動で開始します。

症状 QCCR1A57461

ウィンドウ/ダイアログのサイズ変更後に誤った形状のカーソルが表示される

HP One Voice または Metal ルック & フィールを使用している場合、ウィンドウ/ダイアログのサイズを素早く変更してマウス ボタンを放すと、ウィンドウ/ダイアログ内でカーソルの形状がサイズ変更形状のまま元に戻りません。この形状は、以下の状況で表示されます。

- ウィンドウ: タイトルバーまたはメニューバーにカーソルを置いた場合。
- ダイアログ: ダイアログ内の任意の場所にカーソルを置いた場合。

対策

別のルック & フィールを使用します。

症状 QCCR1A56713

https_only を有効にした場合にエラーが通知されない

ito_op.bat で https_only を「yes」に設定し、安全な接続を確立できなかった場合に、接続エラーがユーザーに通知されず、ログインダイアログが再表示されます。

対策

コンソールでエラーメッセージを確認します。

症状 QCCR1A57053

opc_adm オペレータとして **Java GUI** を使用した場合に、読み取り専用メッセージが正しく処理されない

読み取り専用メッセージ (フラグは R) と通常のメッセージを同時に選択すると、選択したメッセージに対して受諾、受諾解除、所有、所有解除、バッファ解除、アクションの実行、注釈の追加を実行できます。

これは欠陥です。読み取り専用メッセージは、何らかの処理の対象となるべきではありません。この問題は opc_adm オペレータのみで発生します。また、バルクモードが無効に設定されているだけでも生じることがあります (OPCUIWWW_BULK_MODE=FALSE)。

対策

管理者以外のオペレータ (opc_op など) として必要なタスクを実行します。

症状 QCCR1A110581

[Message Properties] ウィンドウの **[Instructions]** タブで指示文インタフェースが機能しない

[Message Properties] ウィンドウの **[Instructions]** タブで指示文を取得する場合に、指示の呼び出しが開始されません。

対策

[Message Properties] ウィンドウの **[Instructions]** タブでメッセージの指示文を取得するには、**[Annotations]** タブをクリックし、**[Instructions]** タブをもう一度クリックします。

注記

メッセージブラウザでメッセージを右クリックし、ポップアップメニューから **[Instructions]** を選択して指示を取得することもできます。

症状 QCCR1A110646

Java GUI で、名前にドットが含まれる **CMA** を追加できない

Java GUI でメッセージに CMA を追加するときは、ドットが含まれる CMA 名は使用できません。

対策

CMA 名にはドットを使用しないでください。

症状 QCCR1A57332

ショートカットキー機能により、一部のデフォルト **Java** キー割り当てが無効になる

Java GUI へのショートカットキーの実装方法が原因で、一部のデフォルト **Java** キー割り当てが機能しません。

対策

ありません。

症状 QCCR1A58168

カスタマイズなしで TNS_ADMIN を使用している場合に Java GUI を起動できない

tnsnames.ora ファイルの格納先として別のフォルダを選択した場合は、Java GUI の実行に問題が生じる可能性があります。

対策

/opt/OV/bin/OpC/opcuiwww.sh ファイルを編集し、最初に TNS_ADMIN 変数をエクスポートします。

```
# export TNS_ADMIN=<別の場所>
```

症状 QCCR1A97264

同じダイアログからカラム フィルターを複数回ロードすると、ブラウザのレイアウトが失われる

カラム フィルター ダイアログを開くときに、カスタム保存したフィルターは初回にのみロードされます。カラム フィルター ダイアログを開いた状態でカスタム保存フィルターのロードを複数回試みると、ブラウザのレイアウトが失われ、デフォルトのカラム ラベルが適用されます。

対策

テキスト タブと簡易 / 詳細タブの表示を 2 回切り替えると、カスタム ラベルの表示に戻ります。

症状 QCCR1A104940

設定を再ロードすると、サブマップまたはカスタム マップのテーブル ビューがマップ ビューに変更される

サービス グラフのサブマップまたはカスタム マップには、テーブル ビューがあります。Java GUI サービス グラフを再接続すると、ビューはマップ ビューに変更されます。

対策

Java GUI で [編集] -> [プリファレンス] -> [サービス] タブをクリックします。[オンデマンド サービス ロードを使用] オプションが有効であることを確認します。Java GUI からログオフし、再ログインします。

症状 QCCR1A104944

危険域メッセージが到着しても、[サービス プロパティ] ダイアログのアイコンの色が変わらない

「正常域」を上回る重要度のメッセージが到着したときに、開いている [サービス プロパティ] ダイアログではアイコンの色が変化しません。

対策

メッセージが到着したら、[サービス プロパティ] ダイアログを開きなおします。

症状 QCCR1A109287

Java GUI Web ブラウザのタイトルを判読できない

英語以外の文字を使用するページでは、内部 JGUI Web ブラウザのタイトルは判読できません。

対策

Java GUI のデフォルト Web ブラウザとして外部 Web ブラウザを設定します。

Java GUI で [編集] -> [プリファレンス] を選択し、[プリファレンス] ウィンドウの [Web ブラウザ] タブを選択します。[参照] ボタンをクリックし、外部 Web ブラウザを選択します。

症状 QCCR1A110095

ActiveX で開いた JGUI OLH で、左クリックでリンクを開くことができない

ActiveX で Java GUI を開いた場合、Java GUI のオンライン ヘルプのリンクを左クリックしても開くことができません。この問題は、外部 Web ブラウザで Java GUI を開いた場合は発生しません。

対策

リンクを右クリックし、[開く]を選択します。

ローカライズ

症状 QCCR1A90000

[L10N]: JAVA_GUI: グローバル フィルター内の「Certificate Management」が翻訳されていない

このフィルターは、英語、韓国語、スペイン語、中国語に共通の HPOM のデフォルト設定と共にアップロードされています。日本語のデフォルト設定ファイルでは、この名称は未翻訳のまま残されています。

対策

ありません。

症状 QCCR1A90004

[L10N]: JAVA_GUI: 無効なパスワードでログインした場合に、表示される文字列が翻訳されていない

無効なパスワードで Java GUI にログインしようとする時、エラー メッセージが表示されますが、このメッセージは翻訳されていません。

対策

翻訳されたエラー メッセージが表示されるようにするには、/opt/OV/bin/OpC/opcuiwww.sh を編集し、opcuiwww の呼び出しに含まれるロケールを変更します。次に例を示します。

```
OPCUIWWW_LANG=${LANG} LANG=es_ES.UTF-8 LC_ALL=es_ES.UTF-8 \  
/opt/OV/bin/OpC/opcuiwww $* >> ${LOGFILE} 2>&1  
OPCUIWWW_LANG=${LANG} LANG=ja_JP.UTF-8 LC_ALL=ja_JP.UTF-8 ...
```

日本語版の問題点

症状 QCCR1A108997

contrib ツール ページ (contrib.html) が更新されていない

contrib ページ (<http://<管理サーバー>:8081/ITO/contrib.html>) の内容の日本語翻訳が不完全です。

対策

英語版の contrib ページで最新の情報を入手してください。

HP Reporter 3.80

HPOM は HP Reporter 3.80 をサポートしています。HPOM が対応しているすべてのプラットフォーム (HP-UX、Solaris、Linux) で同じバージョンの HP Reporter が使用されるものと考えてください。ただし、このバージョンの HP Reporter で提供されるレポートとドキュメントには、HPOM on Linux に関する記述がありません。HPOM on Linux に関する具体的な記述はありませんが、Linux 環境でも HP Reporter 3.80 のすべての機能を安全に利用できます。

ドキュメントの正誤表

以下の項目は、ドキュメントに正しく記述されていません。

箇所	『 <i>HPOM Installation Guide for the Management Server, Edition 1</i> 』の「Preparation Steps for the First Cluster Node in a Basic Environment」、「Preparation Steps for the First Cluster Node in a Decoupled Environment」、「Preparation Steps for the First Cluster Node in a Cluster Environment Using an Independent Database Server」、表「Disk Space Required for Shared File Systems」
誤り 訂正	表に記載されている値に誤りがあります。 /var/opt/OV/shared/server 共有ファイル システムの初期値は、 30 MB ではなく 1 MB である必要があります。 /etc/opt/OV/share 共有ファイル システムの推奨値は、 150 MB ではなく、 100 MB である必要があります。
箇所 誤り 訂正	『 <i>HPOM Installation Guide for the Management Server, Edition 1</i> 』 9.0x から 9.10 へのアップグレードに関する情報が記載されていません。 「Upgrade from HPOM 9.0x to HPOM 9.10」という項が追加されました。
箇所 誤り 訂正	『 <i>HPOM Java GUI オペレータガイド</i> 』の「ターミナルアクセス」および「コマンド行ツールへのアクセス」 これらの項では、サポートされなくなった機能について説明しています。 これらの項は削除されました。

日本語版

以下の項目は、日本語版のドキュメントに正しく記述されていません。

箇所 誤り 訂正	『 <i>HPOM Java GUI オペレータガイド</i> 』の「メッセージの表示」 「ペンディングメッセージの表示」というリンクが 2 回繰り返されています。 英語版の最新のマニュアルでは、前述の不要なリンクは削除されています。
----------------	--

箇所 誤り 訂正	<p>『HPOM Java GUI オペレータガイド』の「ツールの起動とカスタマイズ」</p> <p>頻繁に使用するツールの表示機能について記述がありません。</p> <p>以下の内容の「Displaying Frequently Used Tools (頻繁に使用するツールの表示)」という項が追加されます。</p> <p>頻繁に使用するツールは、ツール起動用ポップアップメニューの区切り線の上に表示されるので、簡単に選択できます。この区切り線は、背景が白の HP One Voice を除くすべてのロック & フィールドで表示されます。</p> <p>この方法で区切られるツールの数は、[プリファレンス] ダイアログ ボックスの [一般] タブで設定できます。</p> <p>「itoopec リソースファイル」の表「itoopec のオプションとパラメータ」には、この値の設定に使われる itoopec パラメータ (number_of_frequently_used_tools) が追加されます。このパラメータのデフォルト値は 5 で、1 ~ 15 の範囲で設定できます。</p>
箇所 誤り 訂正	<p>HPOM Java GUI オペレータガイド</p> <p>サーバー管理のリンクに使用されているポート番号 3443 および 3444 はサポートされなくなりましたが、マニュアルには現在も残されています。</p> <p>ポート番号 3443 は 8081 に変更され、ポート番号 3444 は 8444 に変更されます。</p>

ローカル言語のサポート

HPOM 9.10 は、日本語、韓国語、簡体字中国語、スペイン語にローカライズされます。HPOM は、複数言語の環境で使用できます。

HPOM 管理サーバー上の認定エンコーディングとキャラクタ セット

HPOM 管理サーバーと Oracle データベースのホスト システムに設定する必要がある認定エンコーディングとキャラクタ セットは以下のとおりです。

- HPOM ノードのエンコーディング キャラクタ セット: UTF-8
- Oracle データベースのコードセット: AL32UTF8
- Linux 言語変数 LANG:
 - 英語: en_US.UTF-8、en_GB.UTF-8
 - スペイン語: es_ES.UTF-8
 - 日本語: ja_JP.UTF-8
 - 韓国語: ko_KR.UTF-8
 - 簡体字中国語: zh_CN.UTF-8

ドイツ語やフランス語など、その他のロケールもサポートされています。サポートされるキャラクタ セットについては、『*HPOM Administrator's Reference*』を参照してください。

重要 UTF-8 は、HPOM データベースでサポートされる唯一のエンコーディングです。

サポートのローカライズ

HPOM 9.10 は、以下の言語にローカライズされたサポートを提供します。

- 日本語
- 韓国語
- 簡体字中国語
- スペイン語

このサポートの範囲は言語ごとに異なります。各言語のサポート内容を以下の表にまとめています。

表 2 ソフトウェアのローカライズ

ロケール	英語	日本語	韓国語	簡体字中国語	スペイン語
管理 UI	✓	✓			
Java GUI	✓	✓	✓	✓	✓
マニュアル ページ	✓				
インストール	✓	✓	✓	✓	✓
HTTPS エージェン トメッ セージカ タログ	イベント アクション	✓	✓	✓	✓
	組み込み Performance Agent	✓			
エンコーディング/データ ベースのキャラクタセット	UTF-8 AL32UTF8	UTF-8 AL32UTF8	UTF-8 AL32UTF8	UTF-8 AL32UTF8	UTF-8 AL32UTF8

表 3 ドキュメントのローカライズ

ロケール	英語	日本語	韓国語	簡体字 中国語	スペイン語
Java GUI オンライン ヘルプ	✓	✓			
HPOM Java GUI オペレータガイド	✓	✓			
<i>HPOM Software Release Notes</i>	✓	✓			

注記 ローカライズされたマニュアルの最新バージョンについては、以下の Web サイトでご確認ください。
<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

HP Software サポート

以下の場所にある HP Software サポート Web サイトをご利用いただけます。

www.hp.com/go/hpssoftwaresupport

この Web サイトでは、連絡先情報と、HP Software が提供する製品、サービス、サポートの詳細情報にアクセスできます。

HP Software オンライン ソフトウェア サポートは、お客様がご自身で問題を解決するための情報を提供します。ここでは、ビジネスの管理に必要なインタラクティブ テクニカル サポート ツールに迅速かつ効率的にアクセスできます。サポート契約されているお客様がサポートサイトで実行できることは以下のとおりです。

- 関心のある情報について技術情報ドキュメントを検索する
- サポート ケースと改善依頼を記録 / 追跡する
- ソフトウェア パッチをダウンロードする
- サポート契約を管理する
- HP のサポート契約を参照する
- 利用できるサービスに関する情報を参照する
- 他のソフトウェア利用者と意見を交換する
- ソフトウェア トレーニングの情報を調べ、登録する

ほとんどのサポートを利用するには、HP Passport ユーザーとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合は有効なサポート契約が必要です。サポートのアクセス レベルの詳細を確認するには、以下の URL にアクセスしてください。

http://support.openview.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Passport に登録して ID を取得するには、以下の URL にアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

ご注意

当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。

当社製品に適用される特殊保証条件のコピーは、地域の販売およびサービスオフィスにお問い合わせください。

Restricted Rights Legend.

Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause in DFARS 252.227-7013.

Hewlett-Packard Company
United States of America

Rights for non-DOD U.S. Government Departments and Agencies are as set forth in FAR 52.227-19(c)(1,2).

著作権について

©Copyright 2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。

商標について

Java™ は米国における Sun Microsystems, Inc. の商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

Oracle® はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

謝辞

この製品には、OpenSSL Toolkit で使用するために OpenSSL Project が開発したソフトウェアが含まれています (<http://www.openssl.org/> を参照)。

この製品には、Eric Young (eay@cryptsoft.com) が作成した暗号化ソフトウェアが含まれています。

この製品には、Info-ZIP (<http://www.info-zip.org/.html>) で作成したソフトウェアが含まれています。

この製品には、Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com) が作成したソフトウェアが含まれています。

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。

この製品には、Isof (© Copyright 2002 Purdue Research Foundation, West Lafayette, Indiana 47907) が含まれています。

この製品には、The TM4J Project (<http://sourceforge.net/projects/tm4j>) が開発したソフトウェアが含まれています。

この製品には、VM Systems, Inc. (<http://www.vmsystemsinc.com/>) が開発したソフトウェアが含まれています。

この製品には、MX4J プロジェクト (<http://mx4j.sourceforge.net>) が開発したソフトウェアが含まれています。

この製品には、DOM4J (Copyright 2001-2005 © MetaStuff, Ltd. All Rights Reserved) が含まれています。

この製品には、ICU4C (Copyright © 1995-2006 International Business Machines Corporation、および他社) が含まれています。

ご注意

この製品には、ICU4J (Copyright © 1995-2006 International Business Machines Corporation、および他社)が含まれています。

制限された権限に関する通知：DOD FAR 補足規定に従って供給されたプログラムは、「商用コンピュータソフトウェア」であり、関連文書を含むプログラムの使用、複製、および公開は、該当する Oracle 使用許諾契約に記載されている使用許諾の制限に従うものとします。そうでなければ、連邦調達規則に従って供給されたプログラムは、「制限されたコンピュータソフトウェア」であり、関連文書を含むプログラムの使用、複製、および公開は、FAR 52.227-19、『商用コンピュータソフトウェア - 制限された権限』（1987年6月）に記載されている制限に従うものとします。Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

輸出と暗号化の注意事項

このソフトウェアは、下記の国を含む、米国の禁輸制裁国（または同国の国民）に輸出、再輸出、移転またはダウンロードできないものとします。

キューバ、イラン、イラク、リビア、北朝鮮、スーダン、シリア

このリストは変更されることがあります。

このソフトウェアは、米国商務省の被否認者リスト、拡散に利用する恐れのある団体リスト、または米国財務省の特別指定国民リストに記載される者または団体に対して、あるいは米国輸出管理規則 (15 CFR 744) に指定される、核兵器、化学兵器、生物兵器の開発もしくは生産またはミサイル技術プログラムに直接的または間接的に関与する当事者に対して、輸出、再輸出、移転またはダウンロードできないものとします。

さらに、このソフトウェアは、暗号化機能を持っているので、米国暗号輸出規制に従う必要があります。